

令和 2 年度

横浜市立高等学校  
及び  
併設型中学校  
自己評価書

横浜市立南高等学校

## <学校情報>

1 課程・学科 全日制普通科

2 学校長 遠藤 広樹 (令和3年4月1日現在 在職1年目)

### 3 学校教育目標

#### (1) 教育理念

知性・自主自立・創造

#### (2) 教育目標

- 学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成
- 自ら考え、自ら行動する力の育成
- 未来を切り拓く力の育成

### 4 教育方針

#### ○高い学力を身につける

基礎基本に基づいた高い学力を身につけさせるとともに、科学的探究を通して学問や芸術への興味関心を育てる。

#### ○豊かな人間性をはぐくむ

生徒が、健全な心と身体を培い、生きる力を身につけ、豊かな人間性をはぐくむ。

#### ○グローバル人材を育成する。

自他の人権を尊重する精神と集団の中で協力的に問題解決をする力を身につけ、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。

### 5 教職員数 (令和2年12月1日現在)

学校長	<u>1</u>	校長代理	<u>0</u>	副校長	<u>2</u>	事務長	<u>1</u>
教諭	<u>52</u>	(男 <u>32</u> 、女 <u>20</u> )		養護教諭	<u>2</u>		
実習助手	<u>1</u>	事務職員	<u>3</u>	技能職員	<u>4</u>		
AET	<u>2</u>	非常勤講師	<u>6</u>	管理員	<u>0</u>		

6 生徒在籍数（令和2年12月1日現在）

年次（学年）	学級数	男子	女子	合計
1	5	90	104	194
2	5	93	96	189
3	5	91	97	188
4				
合計	15	274	297	571

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		58	58	100%
生徒	1年	194	194	100%
	2年	189	186	98.4%
	3年	188	183	97.3%
	4年			
	合計	571	563	98.5%
保護者		571	467	81.8%

8 自己評価実施日

教職員	令和2年11月13日～令和2年11月19日
生徒	令和2年12月3日～令和2年12月5日
保護者	令和2年11月24日～令和2年11月30日
地域	令和2年10月26日～令和2年12月5日

9 集計・分析期間

令和2年12月5日～令和3年2月2日
--------------------

10 自己評価書の公表方法・時期

令和3年5月下旬までに、ホームページ上で公表する。

## <自己評価>

### 1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

#### □魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員1～12、生徒1～13、保護者1～10)

取組	<p>①市立高校の魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 中高一貫教育校として6年間を見通したカリキュラムの編成、中高の教職員の協働による計画的で継続的な教育活動に取り組んでいる。</li><li>○ 横浜市からの指定を受けたスーパーグローバルハイスクール(横浜版SGH)としての教育活動について、昨年度までのスーパーグローバルハイスクールでの活動の継続を前提に、「総合的な探究の時間」を活用した教科横断型の探究活動(TRY&amp;ACT)の不断の見直しを行っている。 [課題研究、企業・大学による講演・ワークショップ等]</li><li>○ 横浜市教育委員会より指定された進学指導重点校として、教員の授業力や進学指導力の向上に取り組んでおり、令和2年度も外部模擬試験等の活用、長期休業期間中の補講の充実、進路相談の充実等、学習環境の整備を行った。 [中高合同授業研究会、模擬試験の実施、模試解説会(生徒対象)、模試分析会(教員対象)、補講・補習の実施、図書館開放(自習用) 等]</li><li>○ 特別活動を通して問題解決力、コミュニケーション力の向上を目指し、自主自立の精神の涵養に取り組んでいる。 [特別活動(学校行事・生徒会行事・部活動 等)]</li></ul> <p>②進路希望実現への支援</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ ①の進学指導重点校としての取組に加え、大学・企業・専門機関等と連携した教育に取り組み、平素の授業以外にも専門的・高度な学習の機会を提供している。 [TRY&amp;ACT、高大連携講座、大学別説明会、分野別説明会 等]</li></ul> <p>③市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ ①の横浜版SGH、総合的な探究の時間の取組を通して、グローバルな視点を身に付けさせる指導を継続している。</li><li>○ 総合的な探究の時間(TRY&amp;ACT)を活用し、課題研究の深化、異文化理解、デザイン思考・論理的思考力の育成に取り組んだ。 [企業・大学と連携した講演会・講座 等]</li><li>○ 横浜市教育委員会の海外大学進学支援プログラム(ATOP)の拠点校として、生徒の海外大学への進学支援を行っている。</li></ul>
----	--

## 成 果

### ①市立高校の魅力づくり

- 教育活動等についての生徒への設問1～6すべて「そう思う・ややそう思う」を合わせた肯定的な回答(以下「肯定的な回答」)が概ね70%～80%台後半である(肯定的な回答70%を、目標値とする)。
- 生徒への設問7「本校の生徒であることに誇りを感じている」への肯定的な回答が86.9%(平成30年度:72.7%,平成29年度:67.5%)と年々上昇し、生徒の自己肯定感に大きな改善が見られる。
- 保護者の設問1～5に関しては、設問1「進学重点校として、模擬テストや面談の充実など適切な取り組みをしている。」への肯定的な回答が90.8%、設問2「南高校の教育課程は進路実現に適したものになっている。」への肯定的な回答が88.0%と、平成29年度から年々上昇し、大きく改善した値となった。他の設問に関しても、肯定的な回答が80%を超え、令和元年度よりも上回っている。
- 生徒への設問1「ホームルームで良好な人間関係を築いている」に91.9%、保護者への設問3「お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている」に92.3%と高い評価を得ている。また、教職員への設問7「生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。」においても肯定的な回答が91.4%で令和元年度より向上し、安定して高い評価となっている。このことは本校の学校教育目標にある「自主自立」の精神に基づき、生徒の主体性を重視し、体験的な活動を通して自他への理解を深め、社会的自立の力を育てる教育活動が適切に行われている成果と理解し、今後も継続した指導に学校全体として取り組んでいく。

### ②進路希望実現への支援

進路に関する生徒への設問12「希望する進路のために必要な科目や興味・関心を満たす科目が設定されている。」設問13「進路説明回答での進路に関する情報を十分に理解している」への肯定的な回答が90%を超え、良い結果が得られた。また、保護者への設問10「希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている。」への肯定的な回答が82.4%と目標値70%を超えた。生徒による授業評価に関しても概ね高い評価を得ている。教職員への教科指導に関する設問2～5では、令和元年度よりもよい結果となった。教職員が生徒の進路希望実現に向けて教科指導力向上への意欲が年々増していることの表れと考えられる。

### ③市立高校におけるグローバル人材の育成

本学校評価アンケートの設問項目には該当するものがないため、具体的な数値には表れないが、「総合的な探求の時間」やグローバルリーダープロジェクトにおける生徒の取組から、グローバルな視点で様々な社会的事象を捉え、課題解決しようとする意欲が感じられる。

<p style="text-align: center;"><b>課 題</b></p>	<p>① 市立高校の魅力づくり</p> <p>○教育活動や学校生活に対する生徒・保護者及び教職員の評価は、年々向上している。これは、学年団を中心とした様々な場面において、生徒・保護者に寄り添った日々の丁寧な指導と保護者の方々との連携が適切に図られた結果と捉えている。今後も生徒・保護者と学校が協力しながら学習指導や生活指導を継続して行うことが大切だと考える。</p> <p>○地域の皆様からの学校評価では、どの設問においても「わからない」という回答の割合が高い。これは、他の公立小中学校とは違い、広範囲から生徒が通学しているため、地域の皆様にとって身近な存在となっていないことと、コロナ禍において様々な活動を行うことができなかったことが要因と考えられる。</p> <p>②進路希望実現への支援</p> <p>進路に関する情報の提供について、生徒・保護者ともに高い評価を得ているが、生徒の評価と保護者の評価に開きが見られる。令和2年度の取組を継続するとともに、本校の進路に関する取組を保護者会や保護者面談等の機会を捉え、適切にかつ効果的に発信していくことが必要だと考える。</p> <p>② 市立高校におけるグローバル人材の育成</p> <p>令和2年度は、横浜版 SGH としてグローバル人材育成に関する具体的な教育活動の展開について検討を重ねてきた。令和3年度も引き続き、検討が必要である。</p>
<p style="text-align: center;"><b>改善策</b></p>	<p>○附属中学校とともに学習指導についての研究等、授業改善に向けた取組を継続し、授業の質的な向上を目指す。</p> <p>○横浜版 SGH として総合的な探究の時間（「TRY&amp;ACT」）での活動を中心としたグローバル教育について適切な計画の立案と実施に全教職員で取り組み、検討・改善をしながら生徒に身につけさせる能力の伸長を実現する。</p> <p>○本校の教育活動の中で、地域に発信する機会を広げるとともに、無理のない範囲で地域の皆様との交流する場面を増やしていく。</p>

## 2 教育活動の状況

### □進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10、生徒 13、保護者 1、10)

<p><b>取組</b></p>	<p>○本校職員による進路ガイダンスの他、外部講師による進路講演会を実施した。また、進路保護者会や進路通信を通じて保護者に適切な情報を提供した。</p> <p>○生徒一人ひとりに合った進路実現のために各学年で本校職員による模試解説会や夏期講習、冬期講習などの各種講習を実施した。また、3年生においては、年8回の土曜講座や入試直前講習を実施し、生徒の更なる学力向上を図った。</p> <p>○三者面談や二者面談においては模試のデータを活用した学習指導・受験指導の徹底を図った。</p> <p>○模擬試験を3年生は年8回、1・2年生は年4回実施し、そのデータを進路相談等に活用した。</p> <p>○高大連携講座を東京工業大学、東京外国語大学、横浜市立大学、上智大学に依頼し、生徒に大学で学ぶことの意義を幅広く考察させ、進路実現へのモチベーションを高めた。</p>
<p><b>成果</b></p>	<p>○生徒への設問13「進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している」に肯定的な回答が3学年平均93.8%と非常に高い評価を得ており、生徒の進路に対する意識を高めることができた。</p> <p>○保護者への設問1「進学指導重点校として、模擬試験や面談の充実など適切な取り組みをしている」に90.8%、設問10の「希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている」では82.4%と昨年同様高い評価を得られた。</p> <p>○教職員からも設問10の「生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切な指導を行っている」に89.4%と令和元年度より高い評価が得られた。</p>
<p><b>課題</b></p>	<p>○進路ガイダンス、保護者説明会、三者面談、進路相談を生徒、保護者がより満足できる内容にするため、さらなる手段を考え、職員全体のスキルアップを図る必要がある。</p> <p>○成績不振の生徒へのアプローチをさらに考える必要がある。</p> <p>○1年生から家庭学習の習慣化を徹底させ、基礎学力の伸長を図ることが必要である。</p>
<p><b>改善策</b></p>	<p>○中高一貫教育校である強みを生かすため、中学校の教職員、保護者と連携し、早くから進路に関する認識を共有する。</p> <p>○進路通信のさらなる充実化を図り、学校での取り組みや進路情報を生徒・保護者にきめ細やかに発信する。</p> <p>○家庭学習の定着のため、家庭と学校との連携・協力をより一層推進する。</p>

## □教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員 8、生徒 3、保護者 3)

取 組	○各学期に面談期間を設けている。 ○気になる生徒について積極的に情報交換を行う。
成 果	○令和元年度より、教職員・生徒・保護者において評価ポイントが上がっている。 ○担任、学年担当、特別 CO、SC、SSW との連携が図れる機会があり、生徒に対する理解が深まった。
課 題	○面談期間以外でも常に生徒対応が必要である。しかし、会議が多く、放課後の時間帯に生徒と話をする機会が持ちづらい。 ○校内における特別 CO の位置づけが明確でなく、生徒の困り感を共有する機会が限られる。
改善策	○学校全体として会議の効率化など意識する。 ○気になる生徒について学年や教科等から吸い上げ、関係する教員が情報の共有ができるようにする。



## □生徒指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 9、生徒 1・3・5、保護者 3・5・7、地域 3～6・8)

取 組	○登校時の見守りを行いながら、登下校時のマナーやルール、公共機関での乗車マナーについて指導を行い、規範意識の向上について取り組んだ。
成 果	○各対象より肯定的な回答が少しずつ上昇している。
課 題	○地域の方から否定的なご意見をいただくことがあり、特に下校時の路上や乗車マナーについて課題が残る。
改善策	○さまざまな機会を使い、違った立場からの継続指導を行う。また、家庭との生活指導上の課題について共有し、連携を深める。地域の方々に信頼していただける生徒の育成に取り組む。

## □生徒会・委員会活動の状況

(関連アンケート番号：教職員 7、生徒 2、保護者 4)

取 組	○令和 2 年度においては、新型コロナウイルス感染症による学校教育への影響をできる限り少なくする取り組みを行ってきた。その為、様々な行事を学校全体で生徒相互が協力しあい、創意工夫の下に作り上げていかれるように、また学習の場としても、生徒主体の生徒会活動を意識して指導にあたっている。また、生徒全員が参画し、つくりあげることができるよう生徒と話し合いながら、工夫して生徒会活動を行っている。
成 果	○生徒は生徒会行事に積極的に参加し、協力して行事を成功させようとする姿が見られる。生徒の委員会活動では制限のある時間の中で協力し合い活動ができています。今後も生徒の主体性と自主性に重きを置いた丁寧な指導を実践する。
課 題	○令和 2 年度のような事態に対し、立ち止まらずに効率的な活動ができるような生産的な話し合いのできるシステムを役員の中で考えていく必要がある。また、行事の準備にかかる時間や話し合う時間の確保や、委員会に所属していない生徒が積極的に生徒会活動に取り組めるような工夫が更に必要である。
改善策	○生徒会活動の年間計画の立案において、より効率的な活動計画を立案するとともに、生徒会活動に関して、委員の生徒はもとより、委員会に関わっていない生徒にも積極的に働きかけ、参加しやすい環境を整える。学年や他のセクションとも協力し、多くの生徒が機能的に参加しやすく、満足のできる生徒会活動を構築していく。

## □学校生活の状況

(関連アンケート番号：教職員 4～12、生徒 7～13、保護者 6～9)

<p><b>取組</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事等を通して、全生徒が協働・協力の意識を培い、学習活動を含め充実した学校生活を送れる環境を整えることにより、本校の生徒であることに誇りを感じられるような指導をおこなってきた。</li> <li>○海外大学支援プログラム ATOP や課題研究発表会等の実施により、他校の生徒との交流の機会を確保し、さまざまな考えや意見があることを理解させ、他者の意見を適切に理解し、自身の考えを適切に発信することができるように取り組んできた。</li> <li>○進路指導講演会や学年集会を通して、学習意欲の一層の喚起や人権意識のさらなる向上に取り組んできた。</li> <li>○学年集会や模擬試験の分析を通して、日々の学習の効果が自分自身の学力の向上にどの程度反映しているかを客観的に理解させ、適切な学習活動に結び付くように指導をおこなうとともに、生徒自身の自信につながるような声かけを積極的におこなった。</li> </ul>
<p><b>成果</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○82.9%の生徒が「本校の生徒であることに誇りを感じている」と答えている。</li> <li>○他校の様子などを知ることにより、他者の意見を適切に理解し、自身の考えを適切に発信することができる生徒が増えた。</li> <li>○学習への取り組みが効果をもたらしている生徒を中心に、より一層学習意欲を高め、自らの成長にも自信を深めた。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「本校の生徒であることに誇りを感じているか」という設問について、年ごとに数値の上昇がみられるが、この結果に満足することなく生徒全員が本校の生徒であることに誇りを感じられるように指導していく必要がある。</li> <li>○他校の生徒との交流の機会をさらに増やすことで、さまざまな考え方や意見があること理解させ、見聞を広げさせることが必要である。</li> <li>○学校行事について、役員等の生徒たちの多忙感が感じられることから、附属中学校との連携も含めて効率的な運営方法等についての検討が必要である。</li> <li>○学習面で思うような成果が残せない生徒たちに対し、適切な指導・助言を与えるなど、個に応じた指導の充実を図る必要がある。</li> </ul>
<p><b>改善策</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事や学級活動、日々の授業等を通して、生徒の自己肯定感を育み、本校の生徒として誇りを感じられるように指導していく。</li> <li>○本校の教育の長所を全校生徒に適切に理解させるとともに、自主自立の精神に基づく生徒自治によるより良い学校づくりに生徒会活動を中心として取り組むように指導する。</li> <li>○学校行事の内容等を吟味し、より一層質を高めて活性化させることにより、生徒の参画意識を向上させ、愛校心を高める。</li> </ul>

### 3 学校経営の状況

#### □組織運営及び教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 13・14・15・18)

<p><b>取組</b></p>	<p>○学校教育目標の実現のため、各学年・各分掌、各教科で主任を中心に工夫をしながら学校運営に取り組んでいる。令和2年度は、横浜版スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、国際企画部と学年が協働し、企画・運営を行っている。大学や企業と連携し、講演会・出前授業・企業講座等を開催し、生徒の探究活動が深化するよう指導を行っている。</p> <p>○教員の指導力向上に関しては、初任者及び2年次研修、さらに前期中堅教員研修（概ね5年次）、後期中堅教員研修（概ね10年次）に該当している教員を中心に、授業研究に熱心に取り組んでいる。</p> <p>○令和2年度も附属中学校と協働して、中高合同の校内授業研究会を企画運営した。「グランドデザインより～中高6年間を通じ重点化して育成を目指資質・能力を伸ばす授業の研究」をテーマとし、教科ごとの研究協議と全体研修会を実施した。</p>
<p><b>成果</b></p>	<p>○教職員への設問13「学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。」設問14「学校経営方針に基づき教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。」設問15「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。」への肯定的な回答が86%以上と、令和元年度に比べ高い評価が得られた。教職員の共通理解が適切に図られていることが成果として表れていると考える。</p> <p>○教職員への設問18「教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。」への肯定的な回答が79.3%と、令和元年度の65.9%に比べ向上している。中高合同による授業研究会を継続して行い、授業改善や6年間の学びについて共有を図ることができたことが成果として表れている。</p> <p>○令和2年度の新たな取組として、附属中学生が高校の部活動に参加できる体制を整えた。また、中高合同の学校運営組織について検討し、令和3年度に向けて準備をしている。中高一貫教育校として、円滑に学校運営がなされるように体制が整いつつある。</p>
<p><b>課題</b></p>	<p>○どの設問においても肯定的な回答が目標値である70%を超えた。今後も円滑な学校運営のため、中高教職員の意思疎通・協働への意識の向上を図るとともに、負担の軽減に努める必要があると考える。</p>
<p><b>改善策</b></p>	<p>○令和3年度は、中高合同の分掌や委員会組織でスタートする。中高教職員が情報共有や意思疎通を図りながら、円滑な学校運営を目指し取り組んでいく。</p> <p>○中高教職員が種々改善に向けたアイデア等について活発に意見を出し合える風土を醸成していければと考える。</p>

#### 4 いじめへの対応に関する項目

##### □いじめへの対応に関する項目

(関連アンケート番号：教職員 28、生徒 1・4、保護者 3)

取 組	○生徒一人ひとりを丁寧に見ることや相談に応じることにより、いじめの早期発見と未然防止に取り組む。
成 果	○生徒への設問 4 「学校はいじめや差別を許させない環境づくりに努めている」への肯定的な回答が 75.8%と、少しずつ向上している。
課 題	○生徒への設問 4 に対して、「あまりそう思わない」9.6%、「そう思わない」2.3%、「わからない」12.1%の評価がある。より一層学校のいじめ防止に対する取り組みを周知し、理解を図る必要がある。
改善策	○人権教育の質的向上を目指し、体系的な人権教育の改善を目指す。 また、いじめ防止と早期発見に関し、教職員のきめ細やかな観察と SC や養護教諭、家庭とのより一層の連携を実現する。

令和2年度

横浜市立高等学校  
及び  
併設型中学校

自己評価書資料  
学校評価アンケート集計表

各教科授業評価  
生徒アンケート  
保護者アンケート  
地域アンケート  
職員アンケート

横浜市立南高等学校

1年(67期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 国語総合							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	26.3%	51.5%	18.0%	4.1%	77.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	58.2%	39.7%	2.1%	0.0%	97.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	47.4%	44.8%	7.2%	0.5%	92.3%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	50.0%	33.5%	13.4%	3.1%	83.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	80.4%	18.0%	1.0%	0.5%	98.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	75.8%	20.6%	2.1%	1.5%	96.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	64.9%	30.9%	3.6%	0.5%	95.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	73.2%	22.2%	4.1%	0.5%	95.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	76.3%	20.6%	2.6%	0.5%	96.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	85.1%	14.4%	0.5%	0.0%	99.5%

(授業評価を受けて)

(取組)

①令和2年度は授業の見通しや目標を明確にしながら進めた。更に表現や思考を重視した活動を積極的に実施した。

(成果)

①上記①の取組に対して質問項目4や6の数値が上昇し、質問項目3のように主体的、積極的に授業に参加している生徒が多い。

(課題)

①上記①の取組に対して質問項目2の理解度はあるが、定着度は低いと思われるので、定着度の向上が必要である。

(改善策)

①上記①の取組に加え、継続的な知識・理解の定着を図る発問や使用プリントの作成、小テストなどの実施が必要であると考えます。

2年(66期) <2020授業評価>							
科目名 : 現代文B							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	14.1%	36.8%	36.2%	13.0%	50.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	45.4%	41.1%	10.3%	3.2%	86.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	35.1%	54.6%	9.2%	1.1%	89.7%
授業 や先 生に につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	44.3%	33.0%	17.8%	4.9%	77.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	69.7%	28.1%	2.2%	0.0%	97.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	65.9%	31.4%	2.2%	0.5%	97.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	63.8%	29.7%	5.9%	0.5%	93.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	67.6%	28.1%	3.8%	0.5%	95.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	75.7%	18.9%	4.9%	0.5%	94.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	70.8%	25.9%	2.7%	0.5%	96.8%

(授業評価を受けて)

(取組) 文章から感じた「疑問」や「驚き」を軸に、意見交換を重視した活動を行った。評論では、意味段落の読解を生徒が説明する授業とし、最終的に要約を完成させた。文学では、作品の続編を書く創作活動や場面の発表活動を通して、読解を深めた。

(成果) ・最後まで自分の力で読み取ろうとする意欲を養えた。

・発表活動や創作活動の共有により、自己肯定感が生まれた。

(課題) 教科書の作品のみでは、読解のスピードがなかなか上がらない。

(改善策) 幅広いジャンルの文章を積極的に紹介する。

2年(66期) <2020授業評価>							
科目名 : 古典B							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.5%	38.4%	15.1%	5.9%	78.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	52.4%	35.7%	10.3%	1.6%	88.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	35.1%	49.7%	13.5%	1.6%	84.9%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	48.1%	35.1%	11.9%	4.9%	83.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.8%	22.2%	1.1%	0.0%	98.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.5%	22.7%	3.2%	0.5%	96.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	72.8%	24.5%	2.2%	0.5%	97.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	73.4%	22.8%	2.7%	1.1%	96.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	82.6%	15.2%	1.6%	0.5%	97.8%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	78.8%	20.1%	0.5%	0.5%	98.9%

(授業評価を受けて)

(取組) 日々の授業や小テストを通して語彙や文法事項などについて学び、それらを活用して生徒自身が文章を読み取る機会を設けた。さらに文化的な背景を踏まえて、自らの意見を考える機会や、古典で学んだ知識を活かした創作活動や発表も行った。

(成果)

- ・日々の授業や、小テストなどを通しての確認により、古典を読み取るために必要な知識が身につけてきている。
- ・創作活動を通して、古典の知識を、自らの思いを伝えるために活かすことができた。

(課題)

- ・授業を通して得た知識を、問題を解く際に活用することにおいては、演習が足りていないことが課題である。

(改善策)

- ・初見の文章に触れる機会を増やす。



3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 : 現代文B(4)							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.4%	47.9%	9.6%	2.1%	88.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	57.4%	38.3%	4.3%	0.0%	95.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	50.0%	44.7%	5.3%	0.0%	94.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	61.7%	34.0%	4.3%	0.0%	95.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	70.2%	27.7%	2.1%	0.0%	97.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	66.0%	28.7%	4.3%	1.1%	94.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	60.6%	33.0%	5.3%	1.1%	93.6%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	63.8%	29.8%	6.4%	0.0%	93.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	73.4%	21.3%	4.3%	1.1%	94.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	77.7%	20.2%	2.1%	0.0%	97.9%

### 〈授業評価を受けて〉

#### (取組)

年間を通して漢字、語彙、文学史など基礎事項の定着のために小テストを行った。夏休み前までは教科書による読解、夏休み明け以降は問題集を用いてマークシート対策と記述対策演習を行った。特に「共通テスト」初年度であったため、問題集以外にもプリントを準備し対応できる力をつけさせることを意識して行った。

#### (成果)

基礎項目をしっかりと定着させると同時に問題演習によって入試に対応できる力をつけさせることができた。

#### (課題)

例年のように前半に時間的な余裕がとることができれば、グループ学習などを通し自身の考えを深め、確立していくことが課題になったと思われる。

#### (改善策)

前半は、例年とは異なった「緊急事態宣言」という状況になり、じっくりと文章を味わうという時間を確保することができなかった。曜日で変えるなど何らかの文章を読む時間と問題を解く時間のバランスがとれる対策を考えたい。

3年(65期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 古典B(4)							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	45.4%	43.3%	9.3%	2.1%	88.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	55.7%	33.0%	11.3%	0.0%	88.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	43.3%	46.4%	9.3%	1.0%	89.7%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	63.9%	33.0%	3.1%	0.0%	96.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	68.0%	28.9%	2.1%	1.0%	96.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	62.9%	33.0%	4.1%	0.0%	95.9%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	62.9%	25.8%	10.3%	1.0%	88.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	60.8%	35.1%	4.1%	0.0%	95.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	73.2%	21.6%	4.1%	1.0%	94.8%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	81.4%	17.5%	1.0%	0.0%	99.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

高校3年生、「共通テスト」実施初年度、そして1学期前半の授業時数が確保できなかったことなどの理由で、作品をじっくりと読むよりは、年間を通じて演習問題に多く取り組む形式となった。演習問題を数多く解くことで、入試対策としては充実したものとなった。また、年間を通じて、古典単語などの確認の小テストも行い、知識の定着を図った。

(成果)

演習問題を重ねることで、学習すべき項目や形式について知り、慣れることができた。また、演習問題で取り扱う分、部分的にはあるが、多くの古典作品に触れることができ、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができた。

(課題)

演習問題を多く取り扱うことができた反面、じっくりとひとつの作品に向き合う時間をとることが難しかった。1学期の授業が再開された短い期間しかできなかったため、古典文学を学ぶことにより、考え方を広げ、豊かにする、といった方面について課題がある。

(改善策)

ひとつの作品に向き合う時間について、例えば演習問題の本文読解や鑑賞にかかる時間を調整し、長めに確保するなどして、改善する。また、漢文についても同様に演習問題や小テストを行うと同時に、鑑賞する時間を確保し、古典作品に対する興味を喚起する。

3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 : 現代文B(2)							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	28.4%	38.6%	23.9%	9.1%	67.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	50.6%	41.6%	7.9%	0.0%	92.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	47.2%	40.4%	12.4%	0.0%	87.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	48.3%	39.3%	10.1%	2.2%	87.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	51.7%	37.1%	10.1%	1.1%	88.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	50.6%	38.2%	10.1%	1.1%	88.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	42.7%	42.7%	11.2%	3.4%	85.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	49.4%	40.4%	9.0%	1.1%	89.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	57.3%	36.0%	4.5%	2.2%	93.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	65.2%	31.5%	3.4%	0.0%	96.6%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

年間を通して受験対策用の漢字テストを行った。前半は教科書の読解、後半は、問題集を用いて共通テスト対策を行った。「共通テスト」初年度のため、指定の問題集以外にも適宜プリントを準備し対応できる力をつけさせることを意識して行った。

(成果)

大多数が理系で、自主学習では長文にあまり接することのない生徒が多く、問題演習には非常に積極的に取り組んでいた。正誤だけでなく、解答の根拠を含めた議論が始まる主体的な時間であった。

(課題)

単位数が少なく、継続性を実感するのが難しかった。そのためその時間内で問題を解き、解答解説を終わらせようとしてじっくりと解説できない場面も少なからずあった。

(改善策)

現在も行っているがテキストの問題文以外でプリントなどを準備し、成果を感じやすい漢字・語彙などの力を定着させる。また問題文の著者(作者)について他の著作物をプリントなどにして紹介する。

1年(67期) <2020授業評価>										
科目名 : 日本史A										
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う	や や そ う 思 う	そ う 思 う	
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	35.1%	39.7%	19.6%	5.7%			74.7%	
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	66.5%	28.9%	2.6%	2.1%			95.4%	
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	57.2%	35.1%	6.7%	1.0%			92.3%	
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	68.6%	23.2%	6.7%	1.5%			91.8%	
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	86.1%	11.3%	1.5%	1.0%			97.4%	
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	83.5%	14.9%	0.5%	1.0%			98.5%	
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	87.1%	10.8%	1.5%	0.5%			97.9%	
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	80.4%	16.0%	2.6%	1.0%			96.4%	
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	86.6%	12.4%	0.5%	0.5%			99.0%	
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	86.1%	13.4%	0.5%	0.0%			99.5%	

〈授業評価を受けて〉

(取組)

教科書に準じ、特に明治から昭和史の理解を深められるように、重点的に取り組んだ。

(成果)

発問を工夫し、生徒が自ら考え、答えを導く時間と復習の時間を増やすことにより、生徒が前向きに学習に取り組めたととらえている。

(課題)

- ・次年度は昭和の文化史の理解も深められるように取り組みたい。
- ・今年度は休業もあり、定期試験の課題としてプリント学習が多くなり、復習に時間をかけることができなかった。

(改善策)

取り扱う内容を授業のポイント等も含め、精査したいと考える。

1年(67期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 世界史A							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	24.7%	42.3%	25.8%	7.2%	67.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	60.3%	34.0%	3.6%	2.1%	94.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	44.8%	40.2%	11.9%	3.1%	85.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	62.4%	29.9%	6.2%	1.5%	92.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	77.8%	19.6%	1.5%	1.0%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	74.7%	22.2%	1.5%	1.5%	96.9%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	75.3%	18.0%	5.2%	1.5%	93.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	64.9%	28.4%	5.7%	1.0%	93.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	84.0%	14.4%	1.0%	0.5%	98.5%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	84.0%	15.5%	0.5%	0.0%	99.5%

(授業評価を受けて)

(取組)

2年次に学習する現代社会、特に倫理分野に活かせるよう、中国思想史やキリスト教史の単元を中心に授業を展開した。

(成果)

今年度の現代社会(倫理分野)において導入部分が円滑に進んだことで成果が表れたと感じている。

(課題)

- ・今年度も古代が中心であったため、近代の民主革命の比重が少なかった。
- ・今年度は休業もあり、定期試験の課題としてプリント学習が多くなり、復習に時間をかけることができなかった。

(改善策)

昨年同様、課題学習の活用およびそのテーマについて検討する。

2年(66期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 日本史B							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	51.1%	36.2%	12.8%	0.0%	87.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	57.4%	36.2%	4.3%	2.1%	93.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	48.9%	38.3%	12.8%	0.0%	87.2%
授業 や先 生に につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	66.0%	27.7%	6.4%	0.0%	93.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	78.7%	21.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	61.7%	27.7%	10.6%	0.0%	89.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	59.6%	34.0%	4.3%	2.1%	93.6%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	63.8%	25.5%	4.3%	6.4%	89.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	78.7%	17.0%	4.3%	0.0%	95.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	85.1%	14.9%	0.0%	0.0%	100.0%

(授業評価を受けて)

(取組)

難関国公立大学受験に向け、旧石器時代から室町時代の経済までの分野を  
取り組んだ。特に補習では、大学入試問題にも取り組んだ。

(成果)

大学受験に直結した科目のため、主体的に授業を受け、理解度も徐々に向上  
している。

(課題)

多くの生徒は意欲的に取り組んでいるが、若干名の生徒について学習の  
定着に課題がある。

(改善策)

見通しを持って主体的に学習に励むことのできる環境づくりに努める。

2年(66期) <2020授業評価>							
科目名 : 世界史B							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	57.4%	27.8%	13.0%	1.9%	85.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	68.5%	25.9%	5.6%	0.0%	94.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	48.1%	35.2%	16.7%	0.0%	83.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	72.2%	20.4%	5.6%	1.9%	92.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	81.5%	16.7%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	70.4%	25.9%	1.9%	1.9%	96.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	59.3%	31.5%	7.4%	1.9%	90.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	51.9%	35.2%	9.3%	3.7%	87.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	83.3%	14.8%	1.9%	0.0%	98.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	92.6%	7.4%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

原始から中世(近現代)に取り組んだ。

(成果)

生徒は充実した学習への取り組みであったと理解している。

(課題)

1学期前半の休業等により、授業確保が難しく、進行が滞った点。

(改善策)

長期休業期間中の課題学習等で補う努力をする。

2年(66期) <2020授業評価>									
科目名 現代社会									
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う	や や 思 う	思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	17.9%	32.6%	37.5%	12.0%			50.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	45.1%	37.0%	14.1%	3.8%			82.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	40.8%	46.2%	12.0%	1.1%			87.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	53.5%	35.7%	8.6%	2.2%			89.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	79.5%	18.4%	2.2%	0.0%			97.8%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	67.6%	29.7%	2.7%	0.0%			97.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	69.6%	25.5%	4.9%	0.0%			95.1%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	70.1%	21.7%	7.1%	1.1%			91.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	82.6%	14.7%	2.7%	0.0%			97.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	83.7%	15.8%	0.5%	0.0%			99.5%

(授業評価を受けて)

(取組)

大学入学共通テストの政治・経済、倫理への対応をふまえるため、政治・経済の諸課題を均等に取り組んだ。

(成果)

おおむね学習内容を理解できている生徒が多くみられた。

(課題)

大学入学共通テストを見据え、さらに深い内容まで少ない時間でどう取り組むかが課題である。

(改善策)

思考を深める授業づくりを模索する。



3年(65期) <<2020授業評価>>							
科目名 政治・経済							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう 思う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	63.6%	27.3%	4.5%	4.5%	90.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	63.6%	31.8%	4.5%	0.0%	95.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	63.6%	27.3%	4.5%	4.5%	90.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	72.7%	22.7%	4.5%	0.0%	95.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	77.3%	22.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	72.7%	22.7%	4.5%	0.0%	95.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	77.3%	22.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

経済分野を中心に、共通テスト対策も含め、生徒の要望に応えるよう取り組んだ。

(成果)

補習等含め、授業展開に苦労したが、生徒からおおむね満足している評価を得られたことで報われた。

(課題)

さらに効率のいい授業展開を工夫する。

(改善策)

途中で受験に使わなくなってしまった生徒も含め、モチベーションを維持する対策を考えていく。

3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 : 日本史発展							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	83.3%	13.9%	2.8%	0.0%	97.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	72.2%	22.2%	5.6%	0.0%	94.4%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	77.8%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	86.1%	13.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	80.6%	16.7%	2.8%	0.0%	97.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	77.8%	16.7%	5.6%	0.0%	94.4%

(授業評価を受けて)

(取組)

2年次の日本史Bを引き継ぎ、ポツダム宣言までの通史を中心に授業展開し、11月末から共通テストへ向けた演習をおこなった。

(成果)

最後まで取り組む姿勢を崩さず、学習に取り組んだ。

(課題)

授業内における「進度」と「深度」の配分について。

(改善策)

通常の補習に加え、2年次既習単元(古代・中世)を振り返る時間を充足していきたいと考える。

3年(65期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 世界史発展							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	51.9%	38.9%	7.4%	1.9%	90.7%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	55.6%	33.3%	7.4%	3.7%	88.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	48.1%	44.4%	3.7%	3.7%	92.6%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	53.7%	31.5%	11.1%	3.7%	85.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	70.4%	25.9%	0.0%	3.7%	96.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	61.1%	33.3%	5.6%	0.0%	94.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	66.7%	27.8%	5.6%	0.0%	94.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	77.8%	20.4%	1.9%	0.0%	98.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	72.2%	24.1%	0.0%	3.7%	96.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%

(授業評価を受けて)

(取組)

2年次必修でおこなった単元から引き続き授業を展開し、20世紀初頭までを取り扱った。

(成果)

すべての分野をしっかりと取り組むことができた。

(課題)

1年次既習単元(古代・中世)を振り返る時間が不足している。

(改善策)

土曜講座やそれ以外の補習で2年次既習単元(古代・中世)を振り返る時間を充足していきたいと考える。

1年(67期) <2020授業評価>							
科目名 数学ⅠⅡA							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	53.1%	32.0%	11.3%	3.6%	85.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	64.4%	27.3%	6.2%	2.1%	91.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	50.5%	33.5%	13.4%	2.6%	84.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	80.4%	17.5%	1.5%	0.5%	97.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	80.4%	15.5%	3.6%	0.5%	95.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	77.3%	18.0%	3.6%	1.0%	95.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	72.2%	22.2%	5.2%	0.5%	94.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	77.3%	17.0%	4.1%	1.5%	94.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	85.0%	12.4%	2.1%	0.5%	97.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	86.0%	13.5%	0.5%	0.0%	99.5%

(授業評価を受けて)

(取組)

問題演習や復習の時間を充実させ、知識の定着を図った。週末にその週に学んだ内容を課題として課した。長期休業中にも同様に課題を課し、休業明けに試験を実施し知識の定着を図った。

(成果)

各週、各休業中の復習や演習・課題により、基礎・基本が定着し、定期試験や休業明け試験で一定の成果を収めた。

(課題)

令和3年度の大学入学共通テスト傾向に見受けられた、日常生活の事象を数理的に捉え、数値化し問題解決をしていけるよう授業を展開していく必要がある。

(改善策)

日常生活における問題を発見・解決し、その過程の中で、思考力や判断力、表現力を身に着けられるよう、課題学習型の授業を研究していく必要がある。

2年(66期) <2020授業評価>							
科目名 : 数学ⅡBⅢ							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	47.6%	37.3%	10.3%	4.9%	84.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	61.1%	30.8%	7.0%	1.1%	91.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	41.1%	42.2%	13.5%	3.2%	83.2%
授業 や先 生に につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	77.8%	20.0%	1.6%	0.5%	97.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	80.5%	16.8%	2.2%	0.5%	97.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	80.0%	17.8%	1.6%	0.5%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	78.3%	18.5%	3.3%	0.0%	96.7%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	76.1%	21.7%	1.6%	0.5%	97.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	85.9%	12.5%	1.1%	0.5%	98.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

毎週課題提出を行い、学習習慣を身につけさせ、学力の定着を図った。

習熟度別授業を行った。

(成果)

提出物(課題)の提出率は1年次から引き続き高水準を保った。

文理別で近い学力の集団が集まるため授業がやりやすかった。

(課題)

提出物(課題)において解答を写すだけの生徒も出てしまった。

進度確保のため反復練習の時間を授業内であまりとれなかったため基礎基本の定着に個人差が出てしまった。

(改善策)

自分たちで考えさせるように促す。

基礎基本を身につけさせるため、出来る限り復習を行う時間を授業内に設ける。

3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 : 数学Ⅲ							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	58.1%	28.4%	8.1%	5.4%	86.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	62.2%	32.4%	4.1%	1.4%	94.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	51.4%	40.5%	6.8%	1.4%	91.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	71.6%	28.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	75.7%	24.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	67.6%	28.4%	4.1%	0.0%	95.9%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	71.6%	25.7%	2.7%	0.0%	97.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	74.3%	24.3%	1.4%	0.0%	98.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	71.6%	25.7%	2.7%	0.0%	97.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	79.5%	16.4%	4.1%	0.0%	95.9%

(授業評価を受けて)

(取組)

コロナ感染拡大防止による休講の影響を最小限に抑えるためにカリキュラムを見直して早めに大学入試演習に入れるように工夫をした。試験毎に生徒の習熟状況を確認し、できるかぎり個に応じた授業を展開することで生徒たちが積極的に授業に取り組めるように努めた。また、入試問題をを用いて様々な解法を考えさせることで主体的に数学に取り組ませた。

(成果)

冬休みには、全員が大学入試に対応できる体制を整えることが出来た。また、さまざまな解法を生徒たちで考えさせることで深い学びをしていくことで多くの生徒が授業内容を理解でき、授業に主体的、積極的に取り組んでいる成果が出たと考えられる。

(課題)

習熟度別に授業を編成したものの、習熟度の格差は大きく職員の負担は大きかった。

(改善策)

教材研究を深め、様々な生徒に対応したシラバスを数種類作っていく必要がある。

3年(65期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 総合数学							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%	94.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	82.4%	11.8%	5.9%	0.0%	94.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%	94.1%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%	100.0%

(授業評価を受けて)

(取組)

教材を適切に準備し丁寧に演習・解説をすることで、生徒の取り組み、理解度を向上することが出来た。個々の質問に対しても授業外で丁寧に対応した。アンケートも活用し、生徒の必要な教材を的確に準備をした。

(成果)

様々な学力や進路に対応するため、生徒の状況を把握しながら、授業ごとの質問に個別に対応することで、全員の理解度を上げることが出来た。積極的に予習復習をする雰囲気を作ることが出来た。

(課題)

授業準備やアンケート、教材の製作など職員に対する負担が大きかった。数学科として高評価の取組を引き継ぐことが必要である。

(改善策)

更に改善しつつ、次年度も同様な取り組みを行っていきたい。

1年(67期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 物理基礎							
項目	No.	質問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	25.8%	43.8%	22.7%	7.7%	69.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	36.1%	47.9%	12.9%	3.1%	84.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	29.9%	40.7%	24.2%	5.2%	70.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	49.0%	34.0%	13.4%	3.6%	83.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	59.8%	25.8%	11.3%	3.1%	85.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	58.2%	28.9%	7.7%	5.2%	87.1%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	40.7%	32.5%	19.1%	7.7%	73.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	50.5%	35.1%	9.3%	5.2%	85.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	50.0%	24.7%	17.5%	7.7%	74.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	77.8%	20.1%	1.5%	0.5%	97.9%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

令和2年度は、教科書のほかに補助教材としてプリントを配布し、基礎・基本が身に付くように図ると同時に、実験教材を収集して製作し、実験の実施と発問を通して対話的に原理を考察させ、演習問題、記述問題によって深い学びができるように努めた。

(成果)

実験に主体的・探究的に取り組む生徒たちが軸となって、原理や仕組みを積極的に考察し、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られた。

(課題)

生徒によって予習復習、演習問題などの主体的な取り組みが、不足している生徒が見られ、理解度に差が見られる点が今後の課題である。

(改善策)

身近な実験を通して関心を高め、グループワーク等の生徒が主体的・対話的に探究する場面を増やして、学習に取り組む意欲を高めるようにする。



1年(67期) <2020授業評価>							
科目名 生物基礎							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	28.5%	43.0%	23.3%	5.2%	71.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	54.2%	36.5%	7.3%	2.1%	90.6%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	47.7%	39.4%	11.9%	1.0%	87.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	57.5%	30.6%	9.3%	2.6%	88.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	77.2%	20.2%	2.1%	0.5%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	80.2%	17.2%	1.6%	1.0%	97.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり、学習を促進する。	74.1%	21.8%	3.1%	1.0%	95.9%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	69.4%	27.5%	1.0%	2.1%	96.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	79.8%	18.7%	1.6%	0.0%	98.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	86.5%	12.4%	0.5%	0.5%	99.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

複数の教員で各クラスを指導するうえで、共通のプリントを用意し、進度や内容をお互いに確認しながら授業を実施した。

(成果)

授業評価の結果から、良好であったと考えられる。クラスに授業内容の誤差が少なくなるように取り組むことができた。また、共通プリント等によって、重要事項の統一が図れた。

(課題)

自分自身についての生徒評価で、意欲的に学習に取り組んでいる生徒の割合がほかの項目と比べて低い結果となった。

(改善策)

実験や問題演習の時間を増やし、生徒一人一人の活動をより増やすことによって、授業に意欲的に取り組む姿勢を身につけさせていきたい。

2年(66期) <2020授業評価>							
科目名 : 化学基礎							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	43.3%	38.9%	12.2%	5.6%	82.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	58.9%	35.6%	4.4%	1.1%	94.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	46.7%	43.3%	7.8%	2.2%	90.0%
授業 や先 生に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	74.4%	23.3%	1.1%	1.1%	97.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	78.9%	17.8%	3.3%	0.0%	96.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	81.1%	16.7%	1.1%	1.1%	97.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	76.7%	15.6%	6.7%	1.1%	92.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	78.9%	17.8%	2.2%	1.1%	96.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	85.6%	13.3%	0.0%	1.1%	98.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%

(授業評価を受けて)

(取組)

令和2年度も昨年度に引き続き、複数の教員で授業を展開しているため、教員同士の連携を密にし、授業進度や評価方法、授業で扱う内容などについての情報交換を積極的におこなった。

(成果)

No.4~10のすべての項目における「そう思う/ややそう思う」の割合が90%を超える結果となり、教員同士の連携を密にした成果が見られる。

(課題)

No.1の項目における「そう思う/ややそう思う」の割合が相対的に見て低い結果となり、生徒の自宅学習への動機付けが課題である。

(改善策)

普段の講義形式の授業だけではなく、実験や実習を取り入れたり、定期的な問題演習を通して、生徒の動機付けに取り組む。

2年(66期) <2020授業評価>							
科目名 : 化学							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う
自分 自身 につ い	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.5%	41.8%	12.7%	5.1%	82.3%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	55.7%	38.0%	5.1%	1.3%	93.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	44.3%	45.6%	7.6%	2.5%	89.9%
授業 や先 生に つい て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	72.2%	24.1%	2.5%	1.3%	96.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	75.9%	22.8%	1.3%	0.0%	98.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	78.5%	19.0%	2.5%	0.0%	97.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	72.2%	16.5%	10.1%	1.3%	88.6%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	75.9%	19.0%	3.8%	1.3%	94.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	83.5%	16.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(授業評価を受けて)

(取組)

令和2年度も昨年度に引き続き、複数の教員で授業を展開しているため、教員同士の連携を密にし、授業進度や評価方法、授業で扱う内容などについての情報交換を積極的におこなった。

(成果)

No.4~10のほぼすべての項目における「そう思う/ややそう思う」の割合が95%を超える結果となり、教員同士の連携を密にした成果が見られる。

(課題)

No.1の項目における「そう思う/ややそう思う」の割合が相対的に見て低い結果となり、生徒の自宅学習への動機付けが課題である。

(改善策)

普通の講義形式の授業だけではなく、実験や実習を取り入れたり、定期的な問題演習を通して、生徒の動機付けに取り組む。

2年(66期) <<2020授業評価>>							
科目名 地学基礎							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	26.7%	48.9%	17.8%	6.7%	75.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	33.3%	53.3%	10.0%	3.3%	86.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	32.2%	47.8%	17.8%	2.2%	80.0%
授業 や先 生に につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	60.0%	33.3%	6.7%	0.0%	93.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	70.0%	25.6%	3.3%	1.1%	95.6%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	71.1%	25.6%	2.2%	1.1%	96.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	66.7%	27.8%	3.3%	2.2%	94.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	75.6%	16.7%	5.6%	2.2%	92.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	84.3%	14.6%	1.1%	0.0%	98.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	84.3%	14.6%	1.1%	0.0%	98.9%

(授業評価を受けて)

(取組)

令和2年度も昨年度に引き続き、複数の教員で授業を展開しているため、教員同士の連携を密にし、授業進度や評価方法、授業で扱う内容などについての情報交換を積極的におこなった。また、授業で扱う内容に関連する教材(写真、模型、掲示用ブラカードなど)も例年通り収集、制作、改良して活用した。

(成果)

No.4~10のすべての項目における「そう思う/ややそう思う」の割合が90%を超える結果となり、教員同士の連携を密にした成果が見られる。また、おおむね習得してほしい内容は定着したのではと思われる。

(課題)

No.13の項目における「そう思う/ややそう思う」の割合が相対的に見て低い結果となり、学習への動機付けが課題である。文系生徒が選択する科目なので、理科は必要ないという姿勢の生徒に興味関心を持たせることが課題である。

(改善策)

より多くの実験や実習を授業に取り入れ、生徒の動機付けに取り組む。

2年(66期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 物理							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	25.0%	46.9%	20.3%	7.8%	71.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	25.0%	46.9%	18.8%	9.4%	71.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	37.5%	43.8%	12.5%	6.3%	81.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	50.0%	28.1%	14.1%	7.8%	78.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	45.3%	35.9%	14.1%	4.7%	81.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	26.6%	35.9%	28.1%	9.4%	62.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	21.9%	35.9%	23.4%	18.8%	57.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	28.1%	43.8%	17.2%	10.9%	71.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	53.1%	29.7%	7.8%	9.4%	82.8%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	76.6%	20.3%	1.6%	1.6%	96.9%

(授業評価を受けて)

(取組)

令和2年度は、教科書のほかに補助教材としてプリントを配布し、基礎・基本が身に付くように図ると同時に、実験、思考実験の実施と発問を通して対話的に原理を考察させ、大学入学共通テストや大学入試問題を踏まえ、演習問題、記述問題によって深い学びができるように努めた。

(成果)

実験、思考実験に主体的・探究的に取り組み、原理や仕組みを積極的に考察し、学習に意欲的に取り組む姿勢が見られた。

(課題)

生徒によって予習復習、演習問題などの主体的な取り組みが、不足している生徒が見られ、理解度に差が見られる点が今後の課題である。

(改善策)

身近な実験を通して関心を高め、グループワーク等の生徒が主体的・対話的に探究する場面を増やして、学習に取り組む意欲を高めるようにする。

2年(66期) <2020授業評価>							
科目名 : 生物							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う
自分 自身 につ	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	37.5%	56.3%	6.3%	0.0%	93.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	87.5%
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	75.0%	18.8%	6.3%	0.0%	93.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	75.0%	18.8%	6.3%	0.0%	93.8%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

基礎・基本の徹底を図ると同時に、大学入学共通テストや国公立大学入試を踏まえて、実験の実施や実験考察問題、思考力問題、記述問題を取り入れて授業を進めた。

(成果)

生徒が思考力問題や記述問題を意識して、それらに対する取り組み方を徐々に身につけていくと同時に、主体的に学習に取り組む姿勢が高まった。

(課題)

生徒によって理解度に差が見られた。また、予習復習などの取り組みが、まだ不足している生徒も見られた。

(改善策)

早い段階から、受験に向けて自ら問題集などに取り組む姿勢を身につけさせる対策が必要と考える。また、生徒の学力に合わせて、補習等で理解度の差が無くなるように努めていきたい。

3年(65期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 物理							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	38.7%	45.2%	14.5%	1.6%	83.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	41.9%	45.2%	9.7%	3.2%	87.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	37.1%	50.0%	12.9%	0.0%	87.1%
授 業 や 先 生 に つ い て	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	58.1%	29.0%	12.9%	0.0%	87.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	53.2%	33.9%	9.7%	3.2%	87.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	62.9%	30.6%	4.8%	1.6%	93.5%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	59.7%	30.6%	6.5%	3.2%	90.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	59.7%	32.3%	6.5%	1.6%	91.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	50.0%	33.9%	11.3%	4.8%	83.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	66.1%	30.6%	1.6%	1.6%	96.8%

(授業評価を受けて)

(取組)

- ① クラス内での生徒間の理解度に差があるため、学習の補助となるプリントなどを配布しながら、定着を図った。
- ② 生徒の反応を見ながら発問の内容や説明の仕方を少しずつ変えていき、他分野との内容の関りを意識させながら、系統的に学習することの大切さを教えた。

(成果)

- ① 項目7が90%以上好意的な評価を受けており、作図の仕方や数式の立て方などを順序を追って丁寧に指導した結果と考えられる。
- ② 項目6, 10が90%以上好意的な評価を受けており、現在学んでいる単元の学習内容と別の単元の学習内容との共通の考え方を意識させながら授業展開を行った成果と考えられる。

(課題)

- ① 項目9が90%を下回っており、生徒が安心して納得できる評価方法と授業の在り方を考える必要がある。

(改善策)

- ① 生徒の提出物などを評価する際に、すべて評価を数値化(段階化)して目に見える形で返却し、どの観点を伸ばせば良いのか分かりやすい形でフィードバックする。

3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 : 化学							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	43.6%	32.1%	17.9%	6.4%	75.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	51.3%	38.5%	7.7%	2.6%	89.7%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	48.7%	38.5%	7.7%	5.1%	87.2%
授 業 や 先 生 につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	60.3%	35.9%	2.6%	1.3%	96.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	64.1%	32.1%	2.6%	1.3%	96.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	64.1%	32.1%	2.6%	1.3%	96.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	52.6%	38.5%	6.4%	2.6%	91.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	57.7%	33.3%	6.4%	2.6%	91.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	66.7%	30.8%	2.6%	0.0%	97.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	74.4%	21.8%	3.8%	0.0%	96.2%

<授業評価を受けて>

(取組)

- ① 令和2年度は、教科書に載っている内容だけでなく、そこに至るまでの原理・仕組みについて事前に確認し、深い知識を身につけることができるような授業の展開・説明に努めた。また、生徒自身が視覚的に復習することができるよう、実験を計画して考察をさせた。

(成果)

- ① 考察問題などの取り組みの際、自分自身の経験や知識から答えを導き出す、あるいは導き出そうとする場面が多く見られた。解説時のこちらからの問いかけに対しても、思い出して取り組もうとする様子が見られた。その結果が No4~10 において表れていると考えられる。

(課題)

- ① No4~10 に比べて、自分自身についての項目が低い部分が見られ、特に No1 の項目がとりわけ低いので、個々が振り返りを意欲的に取り組むことができる工夫を考えることが必要である。

(改善策)

- ① 3年生で扱った内容が無機・有機の部分であり、生徒自身が予習復習をするには少しばかり苦勞する部分である。まずは、その中でも復習に個々が重きを置くことができるように、本時の目的を明確に提示して演習の時間を設け、目標の達成に努める。



3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 : 生物							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや やそう 思う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.0%	45.0%	10.0%	5.0%	85.0%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	65.0%	25.0%	10.0%	0.0%	90.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	55.0%	30.0%	15.0%	0.0%	85.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	65.0%	30.0%	5.0%	0.0%	95.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	75.0%	20.0%	5.0%	0.0%	95.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%	95.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%	95.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	65.0%	30.0%	5.0%	0.0%	95.0%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	55.0%	40.0%	5.0%	0.0%	95.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%

(授業評価を受けて)

(取組)

大学入学共通テストや国公立大学入試を踏まえ、実験考察問題や論述問題、思考力を問う問題などを取り入れ、応用力を高める取り組みを行った。また、教科書の内容を早めに終わらせ、総復習の演習を2サイクル行った。

(成果)

生徒自身が主体的に学習に取り組む姿勢が高まり、それに伴い学力も向上した。また、論述問題や思考力問題に対する学力も向上した。

(課題)

基礎学力の定着が弱い生徒は、理解度や主体的に取り組む姿勢も低い結果になった。また、授業の年間計画への理解がやや低かった。

(改善策)

早い段階から主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせると同時に、基礎学力の定着が弱い生徒に対しては、補習等で早い段階から遅れを生じさせないように努めていきたい。

1年(67期) <2020授業評価>							
科目名 : 体育							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分自身について	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	63.9%	24.2%	8.2%	3.6%	88.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	69.1%	28.4%	1.5%	1.0%	97.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	58.8%	36.1%	4.1%	1.0%	94.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	85.1%	13.4%	1.0%	0.5%	98.5%
	5	生徒に技術や体力をつけさせようと授業に熱心に取り組んでいる。	75.8%	21.1%	2.1%	1.0%	96.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	71.1%	24.2%	3.1%	1.5%	95.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	66.3%	25.9%	6.2%	1.6%	92.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	56.2%	33.5%	6.2%	4.1%	89.7%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	66.0%	24.7%	5.7%	3.6%	90.7%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	60.3%	29.4%	6.2%	4.1%	89.7%

(授業評価を受けて)

(取組)

1年間を通じて、主体的かつ積極的に体育と関わり、自らで授業を作り上げいくよう取り組んだ。

(成果)

生涯スポーツに向け、少しずつであるが、互いにコミュニケーションを取り合い、主体的に取り組む姿勢を持つ生徒が増えた。

(課題)

分かりやすく適切な発問と説明が不足している。

(改善策)

各種目に応じた特性をより深く研究し、適切なタイミングで実技や見本、感覚の言語化を用いることで分かりやすい説明を心がける。

1年(67期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 保健							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	22.7%	44.8%	22.2%	10.3%	67.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	56.7%	37.1%	4.6%	1.5%	93.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	41.8%	45.4%	10.8%	2.1%	87.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	65.5%	23.7%	9.3%	1.5%	89.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.3%	21.1%	1.0%	1.5%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	77.3%	20.1%	1.5%	1.0%	97.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	69.9%	25.4%	3.6%	1.0%	95.3%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	70.6%	24.7%	3.1%	1.5%	95.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	72.7%	21.6%	3.6%	2.1%	94.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	62.7%	27.5%	6.2%	3.6%	90.2%

(授業評価を受けて)

(取組)

学んだことを自分自身の生活にいかせるかを重要と考え、身近な問題を取り入れ、話し合い活動や発表を用いながら、健康問題を意識させるようにした。

(成果)

様々な活動を通し、よく関わり合い、協力して取り組むことができた。

(課題)

学習の準備をして意欲的に取り組んでいるという生徒が少ない。

(改善策)

より生徒の身近にある問題を扱い、興味関心が持てるようにする。また、授業毎に次の学習内容を提示するなど、意欲的に取り組める環境づくりを行う。

2年(66期) <2020授業評価>										
科目名 : 体育										
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う	や や 思 う	そ う 思 う	
自分自身について	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	61.6%	23.8%	8.6%	5.9%	85.4%			
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	72.4%	24.3%	1.1%	2.2%	96.8%			
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	53.5%	36.8%	6.5%	3.2%	90.3%			
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	86.5%	13.0%	0.0%	0.5%	99.5%			
	5	生徒に技術や体力をつけさせようと授業に熱心に取り組んでいる。	74.6%	22.2%	2.2%	1.1%	96.8%			
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.5%	24.3%	1.6%	0.5%	97.8%			
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	64.9%	31.9%	3.2%	0.0%	96.8%			
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	61.4%	29.3%	7.6%	1.6%	90.8%			
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	64.9%	25.4%	7.6%	2.2%	90.3%			
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	63.8%	22.2%	8.1%	5.9%	85.9%			

(授業評価を受けて)

(取組)

今年度は、接触する種目を外さざるを得ないが、活動できる種目から興味関心のある種目を選択し、工夫しながら活発な活動をする。

(成果)

授業に取り組む姿勢や学習内容の習得は、ほぼ良好である。

(課題)

項目10を改善する必要がある。

(改善策)

主体的な活動を促し、より活発な活動につながるような発問や説明を工夫する。

2年(66期) <<2020授業評価>>							
科目名 保健							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう 思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	17.3%	34.6%	34.6%	13.5%	51.9%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	46.5%	38.9%	9.7%	4.9%	85.4%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	36.2%	48.1%	14.6%	1.1%	84.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	62.2%	32.4%	4.3%	1.1%	94.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	71.4%	27.0%	1.6%	0.0%	98.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	71.4%	24.3%	3.8%	0.5%	95.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	65.4%	28.6%	4.9%	1.1%	94.1%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	59.5%	31.4%	7.0%	2.2%	90.8%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	72.4%	22.2%	4.9%	0.5%	94.6%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	61.6%	25.4%	8.6%	4.3%	87.0%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

各担当がワークシートやパワーポイントを作成し、授業を展開した。  
グループでテーマを設定し、課題を見つけ問題解決を図った。

(成果)

概ね評価は良好である。

(課題)

項目1 についての評価が低い。

(改善策)

日頃から日常生活の中で、健康や環境について問題意識をもつような教材研究の工夫をする。

3年(65期) <2020授業評価>									
科目名 体育									
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う	や や 思 う	思 う
自分 自身 につ いて	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	68.3%	24.0%	3.3%	4.4%	92.3%		
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	73.2%	22.4%	3.8%	0.5%	95.6%		
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	53.6%	36.6%	8.7%	1.1%	90.2%		
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	76.5%	23.0%	0.5%	0.0%	99.5%		
	5	生徒に技術や体力をつけさせようと授業に熱心に取り組んでいる。	58.5%	35.5%	3.8%	2.2%	94.0%		
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	56.8%	38.3%	3.8%	1.1%	95.1%		
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	45.4%	42.1%	8.7%	3.8%	87.4%		
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	39.9%	39.9%	14.2%	6.0%	79.8%		
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	48.1%	33.3%	10.9%	7.7%	81.4%		
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	42.1%	33.3%	15.3%	8.7%	75.4%		

(授業評価を受けて)

(取組)

種目選択制授業で生涯スポーツに繋げる。

(成果)

生徒一人ひとりが積極的に取り組むことができた。

(課題)

質問項目 8, 9, 10 の数値が低いことが課題である。

(改善策)

生徒が主体となる授業づくりに努める。

評価についての説明をより丁寧に行う。

1年(67期) <2020授業評価>							
科目名 芸術							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう 思 う
自分 自身 につ いて	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	69.6%	20.6%	6.7%	3.1%	90.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	77.7%	20.2%	1.6%	0.5%	97.9%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	59.6%	34.2%	4.7%	1.6%	93.8%
授業 や先 生に つ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	64.8%	25.9%	7.8%	1.6%	90.7%
	5	生徒の芸術的な技能と感性を高めさせようと授業に熱心に取り組んでいる。	73.2%	22.7%	3.1%	1.0%	95.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	80.3%	18.1%	1.0%	0.5%	98.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	74.1%	22.3%	3.1%	0.5%	96.4%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	69.4%	26.4%	3.6%	0.5%	95.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	86.0%	12.4%	1.6%	0.0%	98.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	80.8%	17.6%	1.0%	0.5%	98.4%

(授業評価を受けて)

(取組)

新型コロナウイルス感染症感染拡大によって生じた教育活動への影響の中、単元の目標や授業のねらいを丁寧に説明し、観点を明確に伝える工夫を行い、単元の終わりに授業のねらいや観点を再確認できるようにした。

(成果)

おおむね9割の生徒が理解していると判断できる。

(課題)

選択者全員が、芸術への関心意欲を高め、主体的・積極的に授業に参加する内容に努める必要がある。

(改善策)

授業の中での生徒たちとの信頼関係を築くことが大切な為、良い関わりを保ちながら指導にあたるよう教え方についての研鑽を行う。

1年(67期) <2020授業評価>							
科目名 : コミュ英 I							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	37.1%	46.4%	13.9%	2.6%	83.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	60.3%	34.5%	4.1%	1.0%	94.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	45.9%	37.6%	14.9%	1.5%	83.5%
授業 や先 生に につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	71.1%	23.2%	4.6%	1.0%	94.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	81.3%	16.1%	2.1%	0.5%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	78.9%	15.5%	5.2%	0.5%	94.3%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	68.6%	25.3%	4.1%	2.1%	93.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	75.3%	21.1%	2.6%	1.0%	96.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	80.9%	16.5%	2.1%	0.5%	97.4%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	80.4%	17.5%	2.1%	0.0%	97.9%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

【質問項目2】について、単元について概要を把握した後、文構造を含めた深い理解ができるような活動を行い、最終的には発展的な表現活動につなげた。生徒の「英語を聞こう・読もうとする姿勢」「間違いを恐れず相手に伝えようとする姿勢」を維持・伸長するため、読む・聞く・音読といったインプットの機会を多く作るとともに、理解した内容について話したり書いたりする活動を積極的に取り入れた。

(成果)

【質問項目2・3】について、取り組みの目標はおおむね達成できた。アウトプットの様子や生徒が提出したノートから、社会的な内容について多くの生徒が内容を理解し、間違いを恐れず相手に伝えようとしていることが見てとれる。

(課題)

【質問項目1】について、予習復習をしたり積極的に授業に参加したりする生徒の割合が90%を下回っており、生徒が自主的に学ぶ姿勢を身に着けるための支援が必要である。



(改善策)

【質問項目1・2】について各活動を行う際に活動の意図をより明確に提示し、生徒が目的を持って活動に取り組めるようにする。また、授業外で行うとよい学習を必要に応じて具体的に紹介したり、生徒自身が自分に合う学習方法を考える機会を作ったりする。

1年(67期) <2020授業評価>							
科目名		英語表現 I					
項目	No.	質問 (例)	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思うやそう思う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	54.1%	35.6%	8.2%	2.1%	89.7%
	2		60.8%	32.5%	4.1%	2.6%	93.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	42.8%	41.2%	14.4%	1.5%	84.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	62.4%	27.8%	7.2%	2.6%	90.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	77.8%	18.6%	2.1%	1.5%	96.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	75.8%	19.6%	2.6%	2.1%	95.4%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	64.9%	26.3%	5.7%	3.1%	91.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	68.0%	26.3%	4.1%	1.5%	94.3%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	79.4%	16.5%	3.1%	1.0%	95.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	80.4%	17.5%	0.5%	1.5%	97.9%

(授業評価を受けて)

(取組)

【質問項目4】について、2単位のうち1単位はAETとのTTによる授業である。Call教室の機器を駆使し、音声、映像等を組み合わせながら、教師-生徒、生徒-生徒との対話を授業の中心においた。また、ボキャブラリーや表現の定着を図るとともにリスニング練習、会話表現練習、リーディング練習により内容のインプットを行った。また、アカデミックなトピックについて考え、話し合い、自分の考えをまとめ、個人やグループでの発表活動をおこなった。さらに、時間制限のあるなかで自分の考えを論理的に書く活動を定期的に行うなど、意見表出の練習を積み重ねた。

また、もう1単位は基本的な文法事項を用いて自分の考えを表現できるよう、英文を書くための基礎的な力を身につけるべくさまざま演習問題に取り組んだ。

(成果)

【質問項目2】について、大学レベルのボキャブラリーをインプットし、それらを用いて意見が表出できるようさまざまな角度からの練習を行った。また、英語表現で学んだ知識・技術がコミュニケーション英語の読解力やプレゼンテーション技術、並びにライティング力の向上につながった。

(課題)

【質問項目3】について概ね目標値は達成されているが、「自分自身について」の、学習の準備をして意欲的に取り組んでいるとは言えない生徒が約1割強いることが課題である。

(改善策)

上記の課題を解決するため、学習に消極的な生徒には教師からのより積極的な声掛けとほげましが必要である。また、生徒間が今以上に教えあい、学びあいができるような雰囲気づくりにも気を配っていきたい。

2年(66期) <<2020授業評価>>							
科目名 英語表現Ⅱ							
項目	No.	質問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思う やや そう 思う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	41.1%	40.5%	12.4%	5.9%	81.6%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	54.6%	35.7%	8.6%	1.1%	90.3%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	29.7%	47.0%	18.9%	4.3%	76.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	60.5%	26.5%	10.3%	2.7%	87.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	68.6%	24.3%	5.4%	1.6%	93.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	63.8%	29.2%	4.3%	2.7%	93.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	60.5%	25.9%	10.8%	2.7%	86.5%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	61.6%	27.6%	8.1%	2.7%	89.2%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	75.7%	18.4%	5.4%	0.5%	94.1%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	78.4%	20.5%	0.5%	0.5%	98.9%

〈授業評価を受けて〉

【質問項目3】について生徒が英語に触れる機会をできるだけ多く確保し、英語に対する意欲・主体的な学習姿勢を育てようと取り組んできた。

【質問項目4】について、週2時間の授業のうち1時間はAETとのTTでリスニング力、スピーキング力の強化を図り、1時間は日本人教員による解説・演習を通して文法力の向上を図る等、英語力をバランスよく伸ばす授業展開を実践してきた。

【質問項目5】について、発表による言語活動は、日常生活や日本文化に関してだけでなく、社会情勢やグローバルなトピックにも言及し自分が学んだことを自分の言葉で伝える活動を実践してきた。

(成果)

【質問項目3】について生徒たちの積極的な授業参加や、授業で学習した内容の理解・定着を促すことができた。

【質問項目5】について社会的なトピックを英語で扱うことで、よりレベルの高い英語でのコミュニケーション力がついた。②文法理論を学んだことで、英語読解力や作文力が向上した。

(課題)

【質問項目3】について主体的、積極的に授業に参加する生徒が目標値に達しておらず、特に英語を苦手とする生徒への支援が必要である。【質問項目2】について文法が苦手なため、取り組むことに積極的になれない生徒がいる。

(改善策)

【質問項目2・3】について特に文法に苦手意識を持つ生徒が多く、長期休業中や放課後等を利用して個別対応する。授業の中で文法学習の意義や意味を更に説明する。社会で使える英語を身につけるには文法(ルール)を学ぶことも必要であることを再度説明する。

2年(66期) <2020授業評価>							
科目名 : コミュ英Ⅱ							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	34.6%	41.6%	15.7%	8.1%	76.2%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	57.8%	30.3%	9.7%	2.2%	88.1%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	35.7%	44.9%	15.7%	3.8%	80.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	65.9%	27.0%	5.4%	1.6%	93.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	78.4%	18.9%	2.7%	0.0%	97.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	68.6%	25.9%	3.2%	2.2%	94.6%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	65.4%	29.2%	3.8%	1.6%	94.6%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	68.6%	26.5%	2.7%	2.2%	95.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	76.8%	20.5%	2.7%	0.0%	97.3%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	79.5%	19.5%	0.5%	0.5%	98.9%

〈授業評価を受けて〉

(取組)【質問項目2】について全体像をつかんだ後、内容理解を深められるような授業展開をおこなった。教師と生徒、生徒同士のやり取りを通して、内容を理解したり相手に伝えたりする力をつけ、自ら学ぶ姿勢を育てる取り組みを行った。様々な形式での音読を通して、英語のインプットを多くすることを心がけた。本校のラウンド制(※教科書の内容を年間を通じて何度も繰り返し教える方法)を生かして、生徒が何度も繰り返し学習できる方法を実践してきた。④英語レベルとしては3年時にCEFR B2を目標とした。

(成果)【質問項目2・4】について、おおむね目標は達成できた。生徒が作るノートやアウトプット作業から、読む力や内容をまとめる力、そして理解した内容を相手に伝える力が向上したことがわかる。

(課題)【質問項目3】について、主体的、積極的に授業に参加する生徒が80%に達しておらず、特に英語を苦手とする生徒への支援が必要である。

(改善策)

上記課題に対し、英語が苦手な生徒への授業中の観察や声掛けを更に積極的に行う。昼休みや朝、放課後などを利用して、個別に音読練習の支援等をしていく。

3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 : 英語表現Ⅱα							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	46.9%	40.8%	12.2%	0.0%	87.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	55.1%	34.7%	10.2%	0.0%	89.8%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	34.7%	53.1%	8.2%	4.1%	87.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	61.2%	34.7%	4.1%	0.0%	95.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	83.7%	12.2%	2.0%	2.0%	95.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	81.6%	16.3%	2.0%	0.0%	98.0%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	75.5%	24.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	69.4%	24.5%	4.1%	2.0%	93.9%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	75.5%	24.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	71.4%	24.5%	4.1%	0.0%	95.9%

〈授業評価を受けて〉

(取組)【質問項目1】について1・2学年時に学習した英文法を確認しつつ、これまでに学んだ文法事項を応用して英作文の活動に取り組んだ。4択の問題演習にとどまらず、誤文訂正や長文中の文法問題などに取り組み、解答の根拠を互いに説明しあうなどの活動も行った。

(成果)【質問項目3】について英作文の添削に関しては、グループ内で各自が作成したものを協議したのちに、教師からの補足説明を行った。教師が発問や説明を絞って行ったことが評価されている。【質問項目4】について、2学年時より行っている毎時間の小テストの範囲を年間を通して少しずつ広げ、年度末にはすべての範囲を指定し小テストを実施した。

(課題)【質問項目1】について毎時間の小テストを実施したものの、事前に予習して準備してくる生徒が少なかった。家庭での予習・復習を生徒任せにしていた部分があったためだと考える。

(改善策)上記の課題を解決するため、課題や小テストの準備に向けた具体的な方策を授業で示し、家庭学習の状況を把握することが必要である。また、より生徒が主体的、積極的に授業中の活動に取り組むために、生徒に活動の目標を意識させ、小さなゴールを設定していくことが必要だと考える。

3年(65期) <<2020授業評価>>										
科目名 コミュ英Ⅲα										
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう 思 う や や そ う 思 う			
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	31.4%	49.0%	19.6%	0.0%	80.4%			
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	45.1%	47.1%	7.8%	0.0%	92.2%			
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	29.4%	54.9%	11.8%	3.9%	84.3%			
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%	100.0%			
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	78.4%	19.6%	2.0%	0.0%	98.0%			
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%	100.0%			
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	70.6%	25.5%	3.9%	0.0%	96.1%			
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	68.6%	29.4%	0.0%	2.0%	98.0%			
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	73.1%	25.0%	1.9%	0.0%	98.1%			
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	74.5%	23.5%	2.0%	0.0%	98.0%			

〈授業評価を受けて〉

〔取組〕・【質問項目3】について、αクラスには英語に対する苦手意識を持つ生徒が複数いるが、一人一人目標を持ち意欲的に授業に参加する姿が見られ、主体的に学習に取り組むことができた。

・【質問項目6】について1学期から2学期の途中までは、長文の展開に慣れるため、ポイントを押さえながら速読や文構造の確認を繰り返した。それに加えて、1・2年のコミュニケーション英語で習得した語彙や文法の基礎知識を定着するため、復習テストを定期的実施した。また、帯活動として、共通テスト対策リスニング、ディスカッション&ライティング、復習テストの3つをバランスよく取り扱い、生徒の4技能における学習の向上を図った。

・【質問項目4】について2学期中盤からは、共通テスト対策および大学過去問題演習を中心に、主に長文読解問題に取り組んだ。

(成果) 【質問項目6】について、大学入学共通テストリスニング対策では、英語に対して苦手意識を持つ生徒が複数人いるものの、開始当初の7月時点で、ほとんどの生徒が半分以上の得点を獲得することができており、生徒はリスニング力を強みにできるという自信を持つことができた。また、7～8割に達する生徒も多数おり、自信と余裕をもって取り組むことができ、1月時点で平均約7～8割に達することもあった。また、自己の苦手分野を分析しながら弱点の強化を図り、演習を繰り返すことで、限られた時間内に情報を読み取り理解する力や問いの状況を瞬時に把握する力を伸ばすことができた。

一般入試対策の長文問題演習では、様々な分野の英文や問いに触れ、新しい単語の習得や英文解釈を強化することができた。特に英文和訳の問題では、熟語や英文法を見直し正確に日本語で表現することができるようになった。

(課題)

・【質問項目4】について、コロナ感染予防の影響で令和2年度6月から段階的に授業が再開したため、2か月間の自粛期間があり生徒の様子やモチベーションを知ることができなかったことや自粛期間中の課題に対する対応が十分であったかは見直す必要がある。

・【質問項目6】について、3年の授業では、自分の考えや何かについて英語で説明する機会が格段に少なくなるため、帯活動を工夫してスピーキングの時間を少しでも増やすことや、スピーキング力の維持・向上に繋げることが課題である。

(改善策)

・自粛期間中の課題については、印刷した課題などの配布物をセットにして生徒に渡すことができたが、そのあとの生徒へのフォローをどのように行えたかについて共有し、万が一に備えて迅速に対応できるよう検討する。

・スピーキング活動については、トピックのレベルや身に付けてほしいポイントを見極めながら、生徒が培ってきたスピーキング力を維持・向上させるためにできるだけ発話の機会を増やせるよう工夫する。リスニングのスキプトの音読も適宜行う。



3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 英語表現Ⅱβ							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	49.3%	36.6%	11.9%	2.2%	85.8%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	59.0%	36.6%	3.7%	0.7%	95.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	47.0%	43.3%	9.0%	0.7%	90.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	64.2%	30.6%	3.0%	2.2%	94.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	68.7%	25.4%	3.7%	2.2%	94.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	55.6%	33.1%	8.3%	3.0%	88.7%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	56.0%	29.9%	11.2%	3.0%	85.8%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	61.2%	26.9%	9.7%	2.2%	88.1%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	71.6%	23.1%	3.7%	1.5%	94.8%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	76.9%	20.9%	1.5%	0.7%	97.8%

(授業評価を受けて)

(取組)

【質問項目2・4】について、毎回の授業で文法・語法に関する小テストを欠かさずに実施し、知識の定着を図った。文法範囲を4ラウンドにわたって反復学習することができた。

【質問項目3】について、英作文演習では、グループワークによる学び合いをしたり、個別の添削から出た誤りや表現を全体で共有したりしながら、幅広い表現力の伸長と正確性を図った。

(成果)

【質問項目2】について、文法事項の繰り返し学習により、知識の定着がはかれた。また、生徒が互いに話し合いながら問題を解決することにより、知識の定着が深まった。

生徒が書いた様々な表現を共有することにより、表現力の幅が広がった。

(課題)

【質問項目7】について、英作文演習では、授業内で扱える問題量に限りがある。

(改善策)

上記課題を解決するため、授業内で扱えなかった問題を自学自習しやすくするための解説書の使い方を工夫する。

3年(65期) <2020授業評価>							
科目名 : コミュ英Ⅲβ							
項目	No.	質 問	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分自身について	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	47.0%	40.2%	9.1%	3.8%	87.1%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	66.7%	28.8%	4.5%	0.0%	95.5%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	56.1%	37.1%	6.8%	0.0%	93.2%
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	59.1%	33.3%	6.8%	0.8%	92.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	78.8%	20.5%	0.8%	0.0%	99.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	64.4%	28.8%	5.3%	1.5%	93.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	70.5%	22.7%	5.3%	1.5%	93.2%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	66.4%	25.2%	7.6%	0.8%	91.6%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	77.3%	19.7%	3.0%	0.0%	97.0%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	81.1%	17.4%	1.5%	0.0%	98.5%

(授業評価を受けて)

(取組)

【質問項目3】について、自由英作はペアワークで書いたものを互いに添削しあう形式にした。書く前に、そのトピックに対するディスカッションの時間を取った。

【質問項目4】について、長文読解、テーマを決めたライティング、リスニング、大学入学共通テスト演習等、様々な活動をおこなった。多岐にわたる分野の英語にたくさん触れ、英語の力に加えて、幅広く教養を深めることができるよう工夫した。

【質問項目6】について長文読解を軸として、生徒の英語運用能力をより高めるための活動をおこなった。現代社会における諸課題や日常的なシチュエーションをトピックとしたライティング課題を定期的実施した。教科書や使用書で扱った内容に関して、さらに深い学びにつなげるために、映像や音声を使用しながら、理解を深め、ディスカッションを行い、自らの考えを発信する活動につなげた。

(成果)

【質問項目3・4・6】について上記の活動を通して、一定の成果が上がったと感じている。抽象度の高い論説文を中心に読解をおこない、文章の論理構造を理解することに寄与した。ライティングの添削はグループで協議したのちに、教師からフィードバックをおこなったため、情報受信型の学習になるのではなく、主体的に取り組めたことが評価されている。

(課題)

【質問項目1】について、1・2年時までの英語科目と異なり、自宅での予習を義務付けることがほとんどなかった。しかし、授業で取り組んだものに対しての復習の時間は多く割いて欲しかったのだが、家庭学習が定着していなかったことがわかる。

【質問項目7】について、比較的英語が得意な生徒の集団ではあったが、その中でも同じ課題に取り組むのに必要な時間が生徒によって様々であったこと、また、解説等もどこまで必要とするのかに悩んだ。

(改善策)

【質問項目1】について、授業で取り組んだ内容をどのように復習してくるべきなのか、具体的に指示することが必要だったと感じる。教科書・使用書中の新出語句を運用可能なレベルまで到達させるには授業外での自主的な取り組みが必要であった。

【質問項目7】について、生徒同士で学び合う時間を更に増やしてもよいかもしれない。

2年(66期) <2020授業評価>										
科目名 : 家庭基礎										
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや や そう 思 う			
自分自身について	1	授業に必要な用具の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	39.5%	32.4%	17.8%	10.3%	71.9%			
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	56.8%	33.0%	8.6%	1.6%	89.7%			
	3	主体的積極的に取り組み、課題を提出した。	36.2%	49.2%	11.9%	2.7%	85.4%			
授業や先生について	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	67.4%	28.3%	3.8%	0.5%	95.7%			
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.2%	21.6%	2.2%	0.0%	97.8%			
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.5%	24.9%	1.6%	0.0%	98.4%			
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	71.4%	25.9%	2.7%	0.0%	97.3%			
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	73.4%	22.8%	2.7%	1.1%	96.2%			
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	81.1%	15.7%	2.2%	1.1%	96.8%			
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	72.4%	23.2%	2.2%	2.2%	95.7%			

(授業評価を受けて)

(取組) 2か月の休校や新型コロナ感染予防から様々な制約が多い中での授業となったが、生徒自身の生活課題や社会などへの興味関心を高めるために、可能な限りグループワークやロールプレイ・疑似体験・実技テストなどを取り入れ、日常生活と卒業後の自立に役立つ授業を目指し取り組んだ。休校中には、「生活力をつけよう」という課題を出し、自身の生活課題等を考えてもらう機会も作るなどの工夫もした。しかし、講演会や実習など実施できないものもあり、生徒・教員とも不完全燃焼と感じられるところもあった。

(成果) 70%強の生徒が「意欲的に取り組んでいる」と回答しており、授業中も積極的に取り組んでいる様子が見られる。日常生活や自分の一生の中での課題を意識するなどの成果が出ていると思われる。

(課題) 多くの生徒が意欲的に取り組み、学習内容を理解できているが、意欲的に取り組めていない生徒が昨年度より6%増えている。今年度は休校期間もあり授業展開が慌ただしくなったところもあり、工夫が必要であったところもある。

(改善策) 来年度も感染予防の観点から制約の多い授業展開が予想される。授業内容を精選し授業展開等を改善、生徒が一層の関心を持って取り組めるようにしていく。一人ひとりの生徒が、自身の今後の生活の自立に結びつけて、様々な生活課題に取り組むことを意識するような授業を工夫していきたい。

1年(67期) <<2020授業評価>>							
科目名 : 情報							
項目	No.	質 問 (例)	そう 思う	やや そう 思う	あま りそ う思 わな い	そう 思わ ない	そう思 うや そう思 う
自分 自身 につ いて	1	予習復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	21.1%	44.3%	21.6%	12.9%	65.5%
	2	授業で学習した内容はだいたい理解ができ、また身に付いている。	38.7%	44.3%	12.4%	4.6%	83.0%
	3	主体的、積極的に授業に参加している。	20.6%	43.8%	26.3%	9.3%	64.4%
授業 や先 生に につ いて	4	授業の年間計画が説明され、授業内容もそれに準じて行われている。	66.5%	24.7%	7.2%	1.5%	91.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	49.0%	37.1%	9.8%	4.1%	86.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	54.6%	35.6%	6.2%	3.6%	90.2%
	7	板書、プリント、教材の使い方が適切で効果的であり学習を促進する。	28.4%	42.3%	21.1%	8.2%	70.6%
	8	公平であり、生徒を理解しようとしているため、安心して質問などができる。	40.7%	39.7%	13.4%	6.2%	80.4%
	9	授業中の活動や提出物への評価は公正で適切であり成績の評価も納得できる。	47.4%	31.4%	15.5%	5.7%	78.9%
	10	発問や説明が適切でわかりやすい。	56.7%	28.9%	9.8%	4.6%	85.6%

〈授業評価を受けて〉

(取組)

教科全体の構成および年間学習計画の周知を徹底し、学習のねらいや目標を明確にするとともに、自己評価、協同学習を取り入れた。

(成果)

アクティブラーニングが実施できず、意欲の低下がみられたが、年間学習計画をもとに、全般的に向上することができた。

(課題)

新型コロナの影響を考えたアクティブラーニングの効果的な実施。

(改善策)

単元ごとに知識の定着を確認する。

新型コロナに対応したアクティブラーニングの形態を模索する。

生徒による学校評価 全学年

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	そう思う・ややそう思う	R1年度	30年度
教育活動等について	1	ホームルーム（学級）で良好な人間関係を築いている。	64.8%	27.2%	5.0%	0.5%	2.3%	<b>92.0%</b>	87.9%	89.5%
	2	生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	38.4%	33.2%	18.5%	8.0%	2.0%	<b>71.6%</b>	73.6%	69.4%
	3	先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	54.4%	30.9%	4.6%	1.4%	8.7%	<b>85.3%</b>	81.0%	77.6%
	4	学校はいじめや差別を許させない環境作りに努めている。	42.6%	33.2%	9.6%	2.3%	12.1%	<b>75.8%</b>	70.6%	65.2%
	5	学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	47.1%	35.9%	9.4%	2.0%	5.7%	<b>82.9%</b>	77.2%	72.8%
	6	学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	43.3%	36.4%	7.8%	2.3%	10.1%	<b>79.8%</b>	80.1%	83.2%
学校生活等について	7	本校の生徒であることに誇りを感じている。	49.4%	37.7%	5.9%	2.8%	4.3%	<b>87.0%</b>	78.5%	72.7%
	8	学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	67.1%	27.9%	3.4%	0.5%	0.9%	<b>95.0%</b>	94.9%	89.7%
	9	学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	61.3%	17.9%	2.5%	0.7%	17.6%	<b>79.2%</b>	75.6%	73.2%
	10	災害時の校内の避難経路を把握している。	41.0%	32.9%	13.9%	6.4%	5.5%	<b>73.9%</b>	76.5%	74.3%
	11	学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	49.7%	33.7%	7.5%	1.8%	7.1%	<b>83.5%</b>	74.4%	69.2%
進路について	12	希望する進路のために必要な科目や、興味・関心を満たす科目が設定されている。	63.4%	28.4%	4.1%	0.7%	3.4%	<b>91.8%</b>	84.4%	80.4%
	13	進路説明会等での進路に関する情報を十分に理解している。	63.1%	30.7%	3.4%	0.5%	2.3%	<b>93.8%</b>	90.4%	85.4%

保護者による学校評価 高校全学年

項目	No.	評価指標	そう 思う	ややそ う思う	あまり そう思 わない	そう思 わない	わから ない	そう思う・やや そう思う	R1年度	30年度
教育活動等について	1	進学重点校として、模擬テストや面談の充実など適切な取り組みをしている。	47.8%	43.0%	6.0%	1.7%	1.5%	90.8%	91.1%	83.7%
	2	南高校の教育課程は進路実現に充実したものである。	42.6%	45.4%	7.7%	1.5%	2.8%	88.0%	75.8%	66.5%
	3	お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	65.5%	26.8%	5.4%	0.6%	1.7%	92.3%	89.0%	89.0%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	53.7%	34.3%	7.9%	2.4%	1.7%	88.0%	87.7%	82.9%
	5	生活習慣や規範意識を身につけるための適切な指導が行われている。	35.3%	49.0%	9.0%	1.1%	5.6%	84.4%	78.8%	71.8%
学校生活等について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	31.0%	50.3%	9.6%	1.9%	7.1%	81.4%	71.9%	65.1%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	47.8%	42.0%	3.2%	1.1%	6.0%	89.7%	91.3%	86.6%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	73.2%	22.1%	1.3%	0.4%	3.0%	95.3%	92.2%	91.9%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	32.8%	45.8%	16.1%	2.4%	3.0%	78.6%	75.2%	66.7%
進路について	10	希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われている。	36.8%	45.6%	8.8%	1.9%	6.9%	82.4%	82.4%	75.9%

令和2年度 地域による学校評価

項目	No.	評価指標	そう 思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わか らない	そう思う・や やそう思う	令和元年度
教育活動	1	学校は地域の人材や施設を教育活動に活かしている。	10.5%	15.8%	19.3%	10.5%	43.9%	26.3%	34.4%
	2	学校は文化祭等の学校行事を通して、地域から信頼される学校を目指している。	22.8%	40.4%	8.8%	8.8%	19.3%	63.2%	46.9%
生徒の様子	3	学校生活が楽しそうで、生き生きとしている様子の生徒が多く見られる。	36.8%	33.3%	7.0%	3.5%	19.3%	70.2%	75.6%
	4	生徒は登下校の際のマナーが身に付いている。	19.3%	31.6%	17.5%	10.5%	21.1%	50.9%	37.0%
	5	生徒は近隣に迷惑にならないような行動を心がけている。	21.1%	33.3%	10.5%	7.0%	28.1%	54.4%	46.3%
地域貢献等	6	学校は地域の活動や行事によく協力している。	7.0%	17.5%	26.3%	14.0%	35.1%	24.6%	31.8%
	7	学校は校舎・グラウンド等の近隣に接している所も清掃し、環境美化に努めている。	24.6%	21.1%	14.0%	10.5%	29.8%	45.6%	46.3%
	8	生徒は社会貢献（地域清掃や地域のボランティア等の取組）の活動により地域に貢献している。	8.8%	15.8%	14.0%	17.5%	43.9%	24.6%	29.5%
	9	学校は地域に向けて学校情報の提供をしている。	10.5%	19.3%	24.6%	7.0%	38.6%	29.8%	41.5%



教職員による学校評価

No	大分類	評価項目	観点	評価指標	十分に実現できている	おおむね実現できている	あまり実現できていない	全く実現できていない	判断できない	十分に「おおむね」実現できている	令和元年度
1	教育活動	第3期横浜市教育振興基本計画		「魅力ある高校教育の推進」に向けて学校全体として取り組んでいる。	13.8%	79.3%	1.7%	0.0%	5.2%	93.1%	91.1%
2		教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。	15.5%	79.3%	1.7%	0.0%	3.4%	94.8%	84.4%
3			取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。	17.2%	77.6%	1.7%	0.0%	3.4%	94.8%	90.9%
4		教科指導	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。	22.4%	67.2%	3.4%	0.0%	6.9%	89.7%	88.9%
5			取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。	31.0%	58.6%	3.4%	0.0%	6.9%	89.7%	84.4%
6			評価評定	観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。	22.4%	51.7%	19.0%	0.0%	6.9%	74.1%	77.8%
7		特別活動 部活動	取組	生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。	17.2%	74.1%	5.2%	0.0%	3.4%	91.4%	84.4%
8		ホームルーム活動	生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資するホームルーム経営を行うことができている。	12.1%	67.2%	1.7%	0.0%	19.0%	79.3%	73.3%	
9		生徒指導	生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。	15.5%	70.7%	8.6%	0.0%	5.2%	86.2%	82.2%	
10		進路指導	生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切な指導を行っている。	24.1%	65.5%	1.7%	0.0%	8.6%	89.7%	84.4%	
11		保健指導	学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。	19.0%	67.2%	3.4%	0.0%	10.3%	86.2%	86.7%	
12		環境美化	資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。	12.1%	75.9%	6.9%	0.0%	5.2%	87.9%	82.2%	
13	学校経営	学校教育目標		学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。	15.5%	70.7%	3.4%	0.0%	10.3%	86.2%	77.8%
14		学校経営方針		学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。	15.5%	70.7%	1.7%	0.0%	12.1%	86.2%	73.3%
15		職員組織 (校務分掌も含む)		一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。	17.2%	70.7%	3.4%	0.0%	8.6%	87.9%	64.4%
16		学年経営		各学年(年次)の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。	17.2%	69.0%	0.0%	0.0%	13.8%	86.2%	77.8%
17		職員会議等		会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。	17.2%	69.0%	1.7%	0.0%	12.1%	86.2%	71.1%
18		研究・研修		教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。	13.8%	65.5%	8.6%	0.0%	12.1%	79.3%	65.9%
19		学校総理	予算編成	予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。	27.6%	62.1%	0.0%	0.0%	10.3%	89.7%	93.4%
20			会計報告	公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を果たしている。	37.9%	50.0%	1.7%	0.0%	10.3%	87.9%	86.6%
21		学校施設 設備		教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。	15.5%	60.3%	17.2%	3.4%	3.4%	75.9%	70.4%
22		情報管理		個人情報の管理が適切である。	29.3%	62.1%	0.0%	0.0%	8.6%	91.4%	88.6%
23		保護者・地域等との連携協力	PTA活動	PTAとの連携・協力の推進が図られている。	19.0%	70.7%	0.0%	0.0%	10.3%	89.7%	88.9%
24			地域等との連携協力	学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。	15.5%	70.7%	0.0%	0.0%	13.8%	86.2%	82.3%
25		危機管理	安全対策	学校安全計画に沿って適正に実施されている。	17.2%	74.1%	0.0%	0.0%	8.6%	91.4%	86.7%
26			防災対策	学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。	12.1%	75.9%	5.2%	0.0%	6.9%	87.9%	84.5%
27	情報公開		募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動が適切に行われている。	32.8%	65.5%	0.0%	0.0%	1.7%	98.3%	97.7%	
28	いじめに関する項目	いじめへの対応	いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる。	24.1%	63.8%	0.0%	0.0%	12.1%	87.9%	88.4%	

令和 2 年度

横浜市立高等学校  
及び  
併設型中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立南高等学校

## 調査全体の日程

調査日：令和2年10月1日 ～ 令和3年3月31日

調査対象校：横浜市立南高等学校

横浜市立南高等学校附属中学校

調査チーム：横浜市立南高等学校・南高等学校附属中学校 学校運営協議会

リーダー：高木 展郎（横浜国立大学教育学部名誉教授）

記録等担当者：田中 淳子（横浜市立南高等学校 副校長）

## 1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

### □魅力ある高校教育の推進状況について

中高一貫教育校として、6年間を見通したカリキュラム編成を行い、中学校では令和3年度からの新学習指導要領に対応した教育課程の編成を行い、高等学校では令和4年度からの新学習指導要領に対応した教育課程の編成への準備を行おうとしている。

横浜市教育委員会より指定された進学指導重点校として、単に大学への進学のみならず、重点貸し手の指導ではなく、教育課程の中で、大学・企業・専門機関等と連携をした、生徒の将来への見通しを基にした進路指導の充実が図られている。

特に、グローバル人材の育成として、教育課程上における「総合的な探究の時間（TRY&ACT）」を活用し、生徒一人一人の課題に基づいた研究を行っていることは、高く評価できる。

しかし、学校の取り組みは、これからの日本の学校教育のあり方に基づいた進路指導を行っているが、保護者の進路志望は大学入試のみを対象としたものになっている面も無いとは言えない状況にあり、日常の学校における授業を通して資質・能力の育成を図ることへの理解を深めることに関して機会を捉えて行い、適切に効果的に発信することを目指していることも評価できる。

## 2 教育活動の状況

### □進路指導の状況について

進路に関する情報を進路ガイダンスや進路講演会によって提供しており、適切な情報提供がされていることが認められる。また、生徒一人一人に対してもきめ細やかな指導が職員によって年間の各機会を捉え行われおり、充実している。

さらに、面談においては、これまでのデータを活用し具体的な進路相談が行われており、生徒に進路に対しての具体的なイメージを持たせることも行われている。

課題として、学業成績があまり芳しくない生徒に対しての指導がより一層求められ、その原因追及も必要と考えられる。

### □学習指導の状況について

中高一貫教育校として、中学校と高等学校との連携が経年的に深まりつつある。これまで中学校における授業満足度が高かった傾向が認められたが、本年度は、高等学校の各教科においても生徒の授業に対する満足度が高くなっていることが認められるようになった。

このことは、生徒の授業評価の項目内容が「自分自身について」と生徒自身の自省を問うとともに、「授業や先生について」の項目により、生徒の授業に対する想いが、授業を行う教師に受け止められ、授業改善の具体が見えやすくなったことにも起因すると考えられる。

生徒による授業評価は、一般的に生徒の感覚的なものに陥りやすい傾向があるが、南高等学校及び附属中学校の生徒による授業評価は授業の具体に踏み込んだものとなっており、この授業評価による授業づくりが今後も求められる。

### □教育課程の状況について

南高等学校と同附属中学校の教育課程の特色は、先にも述べたが、「総合的な探究の時間（TRY&ACT）」にある。附属中学校からの総合的な学習が、高等学校での総合的な学習に継続されており、生徒の発達段階における問題や課題を生徒自身が解決する学習が継続的に教育課程として組織されており、この学習が、南高等学校と同附属中学校の生徒の資質・能力の向上に非常に役立っている。

また、本年度は、COVID-19により休校時期もあったが、特別活動としての行事等が行えない状況もあったが、授業時間はきちんと確保されており、教育課程として行われなければならない時数と内容とは、着実に行われていた。

#### □学校生活の状況について

本校の特色として、学校行事等を通して全生徒が協働・協力の意識を育成することや、学習活動を含め充実した学校生活を送れる環境が整えられていることがあげられる。ここから、本校の生徒としての誇りや自己肯定感を持てるよう、指導も行われている。

一方、校内生活や環境が整えられているため、他校との違いに気づかずいることもあり、海外大学支援プログラム ATOP や課題研究発表会等の実施を通し、他校の生徒との交流の機会を持つことで、様々な考えや見方、意見があることを理解させることができている。このような体験を通し、自らが自分の考えを適切に発信することができるような取り組みが行われていることは、高く評価できる。このような取り組みは、これまでの日本の学校教育で行ってきたコンテンツベースの学力のみでは無いコンピテンシーベースの資質・能力の育成を図るものであり、これからの日本の学校教育で育成しなければならないものとして重要なものである。

このような取り組みを通すことにより、学校全体が活性化し、生徒の参画意識が高まり、愛校心を持つようになる教育が行われていることが認められる。

### 3 学校経営の状況

#### □組織運営及び教職員研修の状況について

令和元年度から行われている学校のグランドデザイン作成も、附属中学校と協働して行われており、校内授業研究会がテーマ「グランドデザインにより～中高6カ年を通じ重点化して育成を目指資質・能力を之罰授業の研究」を各教科で行っていることは、本校の授業づくりの基盤となり、中高一貫教育の一層の深まりと広がりを行う基礎となる。それぞれの攻守が、その特性を生かしつつ、協働して6年間の授業づくりを行うことは、中等教育としての教育の方向性を明確にすることのできる機会でもある。

さらに、令和3年度からは、中学校と高等学校の校務分掌や委員会組織も連携を図ることを目指しており、その成果が期待される。このことにより、学校全体がより一層活性化が図られることも期待している。

### 4 いじめへの対応に関する項目

#### □いじめへの対応について

人が集団で生活する以上、様々なトラブルは発生する。学校においても同様で、いじめはあつてはならないが、集団生活をする以上、どうしても派生することがある。それに対する対応としての取り組みは、面談と情報交換が行われており、いじめの早期発見と未然防止の学校の取り組みが生徒や保護者の受け止め方にも理解されていることが認められる。今後の課題として、このような取り組みの周知と理解を図ることが求められる。また、人権教育の質を高めると同時に、学校と家庭との関係をより綿密にすることも重要となる。

## 5 総評

南高等学校、同附属中学校が中高一貫校として開設されてから10年たちました。開校当初は、中学校と高等学校との学校設置の違いもあり、それぞれの校種が独立していた感じもあり、一貫校としての教育課程上の連携も弱い面もあったと感じられた。しかし、近年には、中高一貫の教育課程も行われつつあり、6年間を通じた教育成果も現れつつある。また、授業において校種を超えた交流も図られるようになったことは、生徒にとっても中高一貫教育校が図られていることを実感できる学校体制が整備されてきたと言える。今後、この一貫校に向けた体制と、それに伴う教育課程を6年間通じたものとしていくことが強く望まれる。

このことは、南高等学校、同附属中学校の教職員が、中高分け隔て無く同じベクトルで教育活動を行うことから、チーム学校としての機能が果たせるようになることが、求められているからでもある。生徒は、南高等学校附属中学校と南高等学校での教育を求めて入学してくる。それは、そこでの教育や授業に期待しているからである。その生徒の要望に応えるため、教師一人一人が、南高等学校、同附属中学校としての授業を行うことが重要となる。生徒は教師を選べない。どの教師に習っても、南高等学校、同附属中学校の授業を生徒に提供することが重要となる。

そのためには、各教科で中高の一貫した教育課程の編成はもちろんのこと、各授業においてどの先生に習っても育成される資質・能力は、同じもので無ければならないことになるし、それを目指して、研修が行われなくてはならない。

そのことは、既に「総合的な探究の時間 (TRY&ACT)」で行われていることであり、各教科における授業においても、この考え方を展開することが求められている。学校で一番時間をかけているのは、授業である。その質的な向上を、「チーム南高等学校、同附属中学校」で行われることを期待している。

## ＜横浜市立南高等学校 中期学校経営方針＞

中期計画期間	平成30年4月～平成33年3月
学校教育目標	<p>(1) 教育理念 知性・自主自立・創造</p> <p>(2) 教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成</li> <li>○ 自ら考え、自ら行動する力の育成</li> <li>○ 未来を切り拓く力の育成</li> </ul>
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 併設型中高一貫教育校としての特色を生かし、生徒の進路希望を実現するための6年間における教育計画を適切に立案し、生徒の進路希望実現を支援する。</li> <li>○ 課題探究及び解決能力を育成し、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。</li> <li>○ 教員の授業力をより一層向上させ、市民に信頼され、選択される学校づくりを推進する。</li> </ul>
目標設定の理由	<p>進学指導重点校としての役割を果たすべく、生徒の学力向上に組織的に取り組み、進路希望の実現を図ることにより、市民からの信頼を勝ち取り、選択される学校へとさらに発展させるため。</p>
<b>学校の特色づくりのための重点目標</b>	
重点取組項目	取組目標
1 教育課程	○ 中高一貫教育校として、教育課程の改善を図る。
2 進路指導	○ 進路指導のさらなる充実のため、教師のスキルアップを図る。
3 学習指導	○ TRY&ACTの特色を生かし、教科横断型の学習による課題探究及び解決能力を育成する。
4 広報活動	○ 進学実績を活用した訴求力のある広報活動の充実
5 学校組織	○ 南高校附属中学校と南高校の、職員組織の円滑な連携・協働の実現
<b>人材育成の取組目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 比較的経験の浅い教員の、教師としての資質・能力の向上</li> <li>○ 指導技術の適切な伝承と、全教員のさらなる指導力の向上</li> <li>○ 教育公務員としての高いコンプライアンス意識の向上</li> <li>○ 教員としての危機管理能力の向上と事故の未然防止</li> <li>○ 保護者との適切な連携と協力・協働による教育力の向上</li> </ul>	

## 中期学校経営方針における13の取組分野

取組分野	取組目標
1 教育目標等の設定・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員が誇りをもって働き、生徒が希望をもって学ぶ学校づくりをすすめる。</li> <li>○ 質の高い授業と効果的進路指導によって、指向性の明確な進路意欲を育てる。</li> <li>○ 自主自立の精神を培い調和のとれた人間を育成する指導を推進する。</li> </ul>
2 組織運営 (働き方改革) 教職員研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンプライアンス意識の向上及び作成文書等の適切な管理をより一層推進する。</li> <li>○ 組織として目標を共有し、協働・協力による教育活動を実践する。</li> <li>○ 校務分掌組織と所掌業務の見直しを図りつつ、超過勤務の削減に対してさらに意識的に取り組む。</li> </ul>
3 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中高一貫教育校として、6年間の学習を継続的に行うため、教育課程の研究を一層推進し、授業改善に資する。</li> <li>○ TRY&amp;ACTの学習において、生徒の課題探究能力や課題解決能力の育成を図る。</li> <li>○ 進学指導重点校として教育課程の改善計画を立案する。</li> </ul>
4 教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修や授業公開、授業参観等を通じた授業改善を実施する。</li> <li>○ 授業力の向上による生徒の一層の学習意欲の喚起を促し、望ましい学習習慣を定着させると共に、学力を向上させる。</li> </ul>
5 特別活動 部活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒会行事やホームルーム活動を通して、人間関係調整力や責任感、リーダーシップなど、社会で生きる力を育成する。</li> <li>○ 発達段階に合わせた適切な部活動や学校行事、特別活動の研究を行う。</li> </ul>
6 生徒指導 教育相談 (特別支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶の励行や社会的規範意識の向上を指導する。</li> <li>○ 教育相談や研修など、必要に応じて外部機関と連携し、生徒理解を深めると共に、適切な指導を積極的に行う。</li> </ul>
7 キャリア教育 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャリア教育の観点に立った大学や企業との連携により、将来設計能力を育成する。</li> <li>○ 早期の適切な大学受験対策が実行できるよう支援体制を整える。</li> </ul>
8 保健指導 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健康教育、安全教育、人権教育を通じて、生徒が安心して学校生活を送れるよう指導、支援する。</li> </ul>
9 学校経理 施設・設備 情報の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公正で適切な学校経理を実現する。</li> <li>○ 学校情報の管理、誤記載等のない文書作成や成績管理を適切に行う。</li> </ul>
10 保護者・地域等 との連携協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 後援会・同窓会・PTAの協働による教育支援体制の強化を、より一層促進する。</li> <li>○ 学校運営協議会による適切な学校支援と、学校評価による学校力の向上を実現する。</li> </ul>
11 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防犯及び防災対策を充実させ、生徒の安全を守り、食育等を推進し、生徒自身が安全で健康に生活する力を向上させる。</li> </ul>
12 学校に関する 情報公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校広報の質的向上をより一層推進する。</li> <li>○ ホームページの適切な運営と管理を行う。</li> <li>○ 学校説明会等を活用し、学校に関する情報をわかりやすく広報する。</li> </ul>
13 いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員が一体となり、深い生徒理解を通じて生徒一人ひとりが安全で、安心して学校生活を送れる環境をつくる。</li> <li>○ 生徒の自己有用感を高め、いじめを許さない学校づくりを進める。</li> </ul>